

I-2-2 哺乳類

哺乳類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 35 種のうち 28.6%にあたる 10 種を選定した。

カテゴリー区別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はヤマコウモリ、ヒナコウモリの 2 種、準絶滅危惧はニホンジネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ハタネズミ、カヤネズミ、ニホンリス、ムササビの 8 種となっている。なお、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅱ類、情報不足の該当種はない(表 I-2-2 参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3 次メッシュの 1/2 地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧Ⅰ類の種群は、金華山北部、土居地区、加納地区の 3 メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、金華山周辺、雛倉地区、安食地区周辺、椿洞地区周辺、山県地区周辺などの 38 メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図 I-2-2 に示すとおりである。

表 I-2-2 哺乳類選定種一覧

カテゴリー区分	哺乳類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	ヤマコウモリ、ヒナコウモリ	2
絶滅危惧Ⅱ類	—	—
準絶滅危惧	ニホンジネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ハタネズミ、カヤネズミ、ニホンリス、ムササビ	8
情報不足	—	—
合 計		10

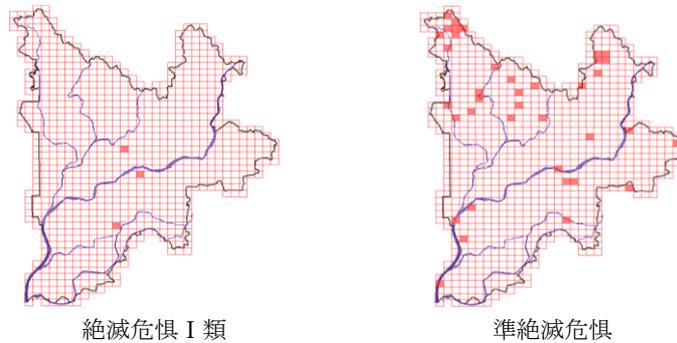


図 I-2-2 カテゴリー別分布状況(哺乳類)

ヤマコウモリ

Nyctalus aviator

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 日本の小型コウモリ類の中で最大種。翼を広げると40cmにも達する。背面の体毛は先端・基部とも明るい茶色で、光沢を帯びる。前腕長58～65mm、頭胴長89～113mm、尾長51～67mm、体重26～61g。市街地の社寺や公園の大木から原生林まで広く生息する。ケヤキ、ブナ、スギなどの大木の樹洞に群れですむ。日没近くになるとキチキチと鳴く。

＜分布＞ [市内] 福光の民家、その周辺4キロ以内の神社と森林で記録がある。
[県内] 大野郡白川村、郡上市白鳥町に分布。
[県外] 北海道、本州(近畿以北)、対馬、壱岐、福江島、沖縄島に分布。

ヒナコウモリ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：梶浦敬一

ヒナコウモリ

Vespertilio sinensis

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 中型の大きさで、暗褐色の体毛に白っぽい長毛が混じって霜降り状に見える。樹洞や海蝕洞を利用するほか神社や学校、民家などの建造物の屋根裏や間隙をねぐらとして利用している。前腕長45～54mm、頭胴長60～76mm、尾長33～47mm、体重13～29g。出産・哺育コロニーをつくる雌親は樹洞で数十頭、建造物では4,000頭を超えることもある。

＜分布＞ [市内] 加納で記録がある。
[県内] 高山市荘川町、大野郡白川村などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

ヒナコウモリ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：—



撮影：山本輝正

ニホンジネズミ

Crocidura dsinezumi

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ ネズミと名前がついているがモグラの仲間、耳が大きく、鼻がとがっている。背は暗褐色で腹は淡灰褐色。尾が長く、先に向かうに従って次第に細くなっている。頭胴長7cm前後、尾長5cm前後、体重8g。低地の湿地や低木林に多く、落ち葉の下などに生息している。繁殖は4～9月に数回行う。1回につき、仔を1～5頭産む。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 達目洞、岩田東、彦坂、岩倉町で記録がある。
[県内] 東白川村、高山市国府町、大野町、美濃加茂市、郡上市白鳥町、中津川市、下呂市、七宗町などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 湿地や池沼などが開発などにより減少しているほか、市内の低木林などは土壌にチャートからなる小岩が多いため、本種の生息に適している環境は少ない。このため生息数が極めて少ない。

トガリネズミ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：梶浦敬一

ヒミス

Urotrichus talpoides

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 小型のモグラで、耳介はない。手はやや大きい幅は長さより小さい。尾は太く棍棒状で、頭胴長の1/3の長さを持ち、比較的長い毛が生えている。背面は黒色か黒褐色で、腹面はやや淡色である。頭胴長90～105mm、尾長27～38mm、後足長13.8～16mm、体重14.5～25.5g。平地から亜高山帯までの湿地や腐植層で半地下性の生活をしているが、地表にもよく出現する。昆虫類やミミズ類などのほか植物の種子も食べている。湿地などの減少で生息域がきわめて限定されている。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 彦坂、上籰倉で記録がある。
[県内] 高山市国府町、白川村、郡上市白鳥町、下呂市萩原町、下呂市田口などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 草地や湿地の開発により、市内では生息地が極めて少ない。

モグラ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：梶浦敬一

キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum

キクガシラコウモリ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 体色は淡い褐色で、頭部前面に鼻葉がある。生息分布域が重なるコキクガシラコウモリとは明らかに大きさが違う。洞穴性で古墳内や小屋の屋根裏も利用する。前腕長 52～65mm、頭胴長 59～82mm、尾長 28～45mm、体重 17～35g。チョウ目やコウチュウ目など夜行性飛翔昆虫類を捕食する。

＜分布＞ [市内] 岩崎、上雛倉で記録がある。
[県内] 高山市、関ヶ原町、郡上市、瑞浪市、中津川市、養老町に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内には生息に適する洞穴環境がほとんど無く、生息場所は廃屋などに限られている。



撮影：梶浦敬一

コキクガシラコウモリ

Rhinolophus cornutus

キクガシラコウモリ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 体色は淡い褐色。外部形態はキクガシラコウモリに似るが、体の大きさが約半分である。洞穴性で廃坑やトンネルなども利用している。前腕長 36～44mm、頭胴長 35～50mm、尾長 16～26mm、体重 4.5～9g。小型の蛾やガガンボなどの飛翔昆虫を捕食する。

＜分布＞ [市内] 彦坂で記録がある。
[県内] 全域に分布するが、生息数は少ない。
[県外] ほぼ全国に分布。

＜特記事項＞ 市内には生息に適する自然の洞穴やトンネルが見られない。



撮影：梶浦敬一

ハタネズミ

Microtus montebelli

ネズミ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 背面は茶色あるいは灰黄色で、腹面は灰白色。同じ体型にスミスネズミやヤチネズミがおり、その区別に注意を要する。頭胴長 95～135mm、尾長 60mm。低地から高山帯まで広く分布するが、捕獲することが難しく、詳しい生態はわかっていない。草の茎、実、根茎までも食べる。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 長良川の河畔、上雛倉、石谷で記録がある。
[県内] 白川村、本巣市、瑞穂市、下呂市、高山市、郡上市、揖斐川町などに分布。
[県外] 本州、九州に分布。



撮影：梶浦敬一

カヤネズミ

Micromys minutus

ネズミ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：—

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 成体は頭胴長 50～80mm、尾長 61～83mm、後足長 14～16.7mm、体重 7～14g。背面は暗褐色で腹面は白色である。通常、草地、水田、畑、沼沢地などのイネ科が密生し、水気のあるところに生息する。水泳を泳ぐ。鳥が作るような巣を作り、巣材にはススキ、チガヤ、ゴウソなどが用いられ、巣のある高さは地上から 50～110cm で、晩春と初冬は低く、夏～秋に高い。冬季には地表の堆積物や地下に坑道を掘り、種子や昆虫を食べる。

＜分布＞ [市内] 長良川河川敷の草地、北西部、北一色などで記録がある。
[県内] 飛騨地方の一部地域、美濃地方の中濃および東濃・西濃地域などに分布。
[県外] 福島県以南の太平洋側、石川県以西の日本海側に分布。



撮影：梶浦敬一

ニホンリス

Sciurus lis

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 夏毛では背面は赤褐色、冬毛では灰褐色。腹は純白、尾の先は白く冬毛では耳先にふさ毛が生じる。頭胴長 16～22cm、尾長 14～17cm、体重 250～310g。平野部から亜高山帯までの森林に生息し、昆虫や植物の種子、果実のほか、特にキノコ類を多く食べている。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 大洞、百々ヶ峰周辺、雛倉で記録がある。
[県内] 飛騨、中濃、西濃、東濃などに分布。
[県外] 本州(中国地方以西には少ない)、四国、九州(近年確実な記録はない)に分布。

＜特記事項＞ 市内の低山帯では松林に多く生息していたが、近年の松枯れにより、生息に適した環境が減少している。さらに開発などにより生息環境の分断や移動経路の遮断が見られる。こうしたことから、市内の個体群は、周辺地域から隔離された限られた範囲に生息している状況にある。

リス科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—



撮影：梶浦敬一(市外撮影)

レッドリスト

哺乳類

ムササビ

Petaurista leucogenys

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 体全体は褐色系であるが、親子でも個体間において色彩変異が多い。腹面は白く、目と耳の間から頬にかけて帯状に淡色の部分がある。頭胴長 30～50cm、尾長 30～40cm、体重 700～1,500g。飛膜が首から前肢・後肢・尾の間に発達している。夜行性で、低地帯から亜高山帯までの天然林や二次林のほか、杉林にも多く、樹上で生活している。神社仏閣の建物にねぐらを作っていることもある。木の芽、葉、花、果実、種子のほか、昆虫も食べることがある。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 城田寺、三輪、彦坂、雛倉で記録がある。
[県内] 平野部を除いてほぼ全域に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では生息している山林で開発が進んだことにより、生息環境の分断や移動経路の遮断が見られる。こうしたことから、市内の個体群は、周辺地域から隔離された限られた範囲に生息している状況にある。

リス科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—



撮影：梶浦敬一

I-2-3 鳥類

鳥類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 238 種のうち 9.5%にあたる 22 種を選定した。

カテゴリー区別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はヨタカ、ヒメアマツバメ、シロチドリ、コアジサシ、サンショウクイ、セッカ、トラツグミ、コサメビタキの 8 種、絶滅危惧Ⅱ類はバン、タマシギ、サシバ、コシアカツバメの 4 種、準絶滅危惧はヤマドリ、カイツブリ、ササゴイ、イカルチドリ、ハチクマ、オオタカ、フクロウ、アオバズク、サンコウチョウ、オオルリの 10 種である。なお、絶滅、野生絶滅、情報不足の該当種はない(表 I-2-3 参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3次メッシュの1/2地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧Ⅰ類の種群は、下奈良地区周辺、柳戸地区周辺、山県地区などの 27 メッシュで記録がある。絶滅危惧Ⅱ類の種群は、下佐波地区、河渡地区、則松地区、長良古津地区、彦坂地区、山県地区周辺などの 26 メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、金華山周辺、長良川や伊自良川、板屋川沿いの各所、彦坂地区、長良古津地区などの 120 メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図 I-2-3 に示すとおりである。

表 I-2-3 鳥類選定種一覧

カテゴリー区分	鳥類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	ヨタカ、ヒメアマツバメ、シロチドリ、コアジサシ、サンショウクイ、セッカ、トラツグミ、コサメビタキ	8
絶滅危惧Ⅱ類	バン、タマシギ、サシバ、コシアカツバメ	4
準絶滅危惧	ヤマドリ、カイツブリ、ササゴイ、イカルチドリ、ハチクマ、オオタカ、フクロウ、アオバズク、サンコウチョウ、オオルリ	10
情報不足	—	—
合 計		22



図 I-2-3 カテゴリー別分布状況(鳥類)

ヨタカ

Caprimulgus indicus

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 夏鳥として全国の草原や明るい林に渡来し、林道沿いの草地などで繁殖する。特に巣らしいものは作らず、直接地面に卵を産んでいることもある。夕方から夜間にかけて飛びながら昆虫を食べる。捕らえるというより口を大きく開き、飛び込んでくる虫を食べている。昼間は木の横枝に平行にとまって休み、まるで木のこぶのように見える。「キョッキョッキョッキョッ・・・」と連続的に鳴く。

＜分布＞ [市内] 稀に鳴き声の記録があるが、渡りの途中のものと思われる。
[県内] 以前は県下各地の山林で囀りを聞いたが、近年は繁殖地が減少している。
[県外] 夏鳥として北海道から九州の丘陵帯から山地帯にかけて飛来する。

ヨタカ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧



撮影：大塚之稔

ヒメアマツバメ

Apus nipalensis

＜選定理由＞ 希少、特異生態

＜種の概要＞ 本州中部以南に生息し、太平洋岸に多く見られる。九州地方では留鳥である。コシアカツバメやイワツバメの古巣を利用して繁殖するが、大量の羽毛を持ち込むため、入り口に羽毛が見えていることが多い。アマツバメより一回り小さく、尾羽は燕尾状にはなっていない。ハリオアマツバメを小型にした感じである。渡りの時期には、他のアマツバメ類に混じることがある。

＜分布＞ [市内] 長良川にかかる鵜飼大橋の橋桁にあったイワツバメの巣で繁殖したことがある。
[県内] 春と秋の渡りの時期に稀に観察される程度である。
[県外] 関東地方から九州の主に太平洋側の平地で繁殖する。

アマツバメ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：—
環境省：—



撮影：大塚之稔

シロチドリ

Charadrius alexandrinus

＜選定理由＞ 分布限界、環境改変

＜種の概要＞ 九州以北に留鳥として分布するが、北海道では夏鳥である。海岸や河川下流域の砂地、砂礫地で主に繁殖する。冬は群れで生活し、ハマシギと混群をつくっていることがある。よく似た種類にコチドリ、イカルチドリがいるが、本種は首の部分の黒い帯が前方で切れていることで識別できる。河川中流域では稀であるが、コアジサシのコロニー内で同居していることがある。

＜分布＞ [市内] 長良川の中州で記録がある。
[県内] 美濃地方の大きな河川の砂礫地や中州に分布。
[県外] 全国の海岸、河川下流域に分布し、北日本では冬は移動する。

チドリ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚之稔

コアジサシ

Sterna albifrons

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 夏鳥として全国の海岸、河川などに渡来し、砂浜や河川の中州などで集団で繁殖する。地面に直接、あるいは枯草などをほんの少し敷いただけの巣を作り、2～3卵を産む。空中をホバリングしながら狙いを定めて水中に飛び込み、小魚を捕えて食べる。外敵には「キリッキリッ」と鳴いて集団で威嚇したり、糞をかけたりしてコロニー内から追い出す。カラス類はこの攻撃を気にすることなく、卵や雛を食べてしまう。

＜分布＞ [市内] 一日市場の長良川河川敷、西中島地内の造成地で記録がある。
[県内] 木曽川、長良川、揖斐川の中州などで繁殖記録がある他、飛騨市や土岐市では渡り途中の記録がある。
[県外] 本州以南の海岸、河川流域に夏鳥として飛来する。

カモメ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚之稔

＜特記事項＞ 「種の保存法」の国際希少野生動植物種。

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus

サンショウクイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 夏鳥として九州と本州に渡来し、平地から低山の山林に生息する。全長が20cmでツートンカラーのスマートな姿をしている。横枝にコケとクモの糸で張り付けるように巣を作る。鳴き声が「ピリリリ ピリリリ」と聞こえ、「山椒は小粒でもピリリと辛い」という言葉からこの名が付いている。

＜分布＞[市内] 1970年代は市内の山林で普通に繁殖していたが、現在は渡りの時期に確認されるだけである。

[県内] 県下全域の丘陵帯から山地にかけて広く分布。

[県外] 本州や四国の丘陵帯から山地帯の林に夏鳥として飛来する。南西諸島では留鳥である。



撮影：大塚之稔

セッカ

Cisticola juncidis

セッカ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 本州中部以南に分布し、河川敷の草地や農耕地に生息する。積雪の多い地方のものは暖地に移動する。一夫多妻制で、繁殖期には囀り飛翔をよく行い、上昇するときには「ヒッヒッヒッ・・・」、下降するときには「チャチャッ チャチャッ・・・」と、特徴のある声で鳴く。雄はイネ科の植物の茎にチガヤの穂を編むようにして巣を作り、雌をなわばり内に誘い入れる。

＜分布＞[市内] 河川敷の草地や水田で見られ、以前は繁殖期に鳴き声をよく聞いた。

[県内] 主に美濃地方の草地に生息し、飛騨地方では稀である。

[県外] 本州中部以南に留鳥として分布し、北方のものは冬季、暖地に移動する。



撮影：大塚之稔

トラツグミ

Zoothera dauma

ヒタキ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：情報不足
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 全国の平地から山地の林内に留鳥として生息し、冬は暖かい地方に移動する。全長30cmでツグミ類の中では最も大きい。上面が黄褐色で下面にうろこ模様の斑点があるのが特徴で、トラという名もここからきている。暗い林内の地上でミミズや昆虫を捕食している。夜間や雨天の暗い日、「ヒーヒー」と気味悪い声で鳴くが、昔は「鶴」という怪物の声とされていた。

＜分布＞[市内] 以前は金華山、百ヶヶ峰や北部の山林で繁殖していた可能性が高いが、近年は囀りが聞かれなくなった。

[県内] 県下全域の丘陵帯から山地帯の山林に分布。

[県外] 本州、四国、九州では漂鳥か留鳥で、北海道では夏鳥として分布。



撮影：大塚之稔

コサメビタキ

Muscicapa dauurica

ヒタキ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 夏鳥として全国の平地から低山に渡来し、明るい落葉広葉樹林に生息する。枝先にとまって、飛んでいる昆虫を空中で捕え、また元の枝に戻るといった行動をする。渡りの時期には、市街地の公園などにも現れる。同じ仲間のサメビタキやエゾビタキも同時に見られることがあり、本種は全体に色が淡く、目の周りの白いリングがはっきりしているのが特徴である。

＜分布＞[市内] 渡り途中の個体が観察されるが、三田洞地内の山林で繁殖したらしいという観察記録がある。

[県内] 県下全域の丘陵帯の里山的環境に分布する。

[県外] 全国の丘陵帯から山地帯の落葉広葉樹林に夏鳥として飛来する。



撮影：大塚之稔

バン

Gallinula chloropus

クイナ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 湖沼や池、河川、休耕田に生息し、関東以北では夏鳥であるが、中部以南では一年中見ることができる。「クルルッ」と聞こえる声で鳴く。全身は黒く、嘴の基部から額にかけて赤いのが特徴である。年に数回繁殖し、先に生まれた若鳥が次の雛の世話をする習性（ヘルパー）が知られている。近年、冬鳥として額の白いオオバンが各地で越冬するようになった。

＜分布＞[市内] 天王川や伊自良川などの小河川や休耕田で見ることができる。

[県内] 主に美濃地方の小河川、池沼などの湿地に生息し、飛騨地方では少ない。

[県外] 留鳥として北海道から九州まで広く分布するが、関東以北では夏鳥である。



撮影：大塚之稔

タマシギ

Rostratula benghalensis

タマシギ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、特殊環境

＜種の概要＞ 本州中部以南の内陸の水田や湿地に留鳥として生息しているが、近年は冬に見られる個体が少なくなった。一妻多夫という珍しい繁殖形態をもち、抱卵、子育ては雄が行う。繁殖地では、雌は夕方、なわばり宣言の「コーコー」という声を出して雄を誘う。役割が逆転していることで雌の方が羽色が派手である。雌雄ともに目の周囲に勾玉模様があることから、この名前が付いている。

＜分布＞[市内] 木田、佐波、三輪地内などで記録がある。

[県内] 主に美濃地方の休耕田や湿地で繁殖するが、数は少なく、飛騨地方では稀に観察される程度である。

[県外] 本州中部以南に留鳥として分布し、東北地方、北海道では稀である。



撮影：大塚之稔

サシバ

Butastur indicus

タカ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 夏鳥として全国の低山の林に渡来し、繁殖するオオタカ位の大きさのタカである。沖縄や宮古島で越冬する個体もいる。全身は褐色をしているが、稀に黒褐色の個体がいる。谷地のある林を好み、カエルやヘビを捕食する。

＜分布＞[市内] 百ヶヶ峰などで僅かであるが繁殖する。渡り途中の個体を普通に観察することができる。

[県内] 県下全域の低山の山林で繁殖する。

[県外] 本州、四国、九州に夏鳥として飛来し、南西諸島では越冬する。



撮影：大塚之稔

コシアカツバメ

Hirundo daurica

ツバメ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 夏鳥として九州以北に渡来するが、西日本に多く分布する。ツバメより一回り大きく、尾が長い。名前の通り、腰の部分が赤く、腹部に縦斑があるのが特徴である。コンクリートの建物の壁に徳利を半分にしたような巣を泥で作る。本種やイワツバメの巣は横に出入り口があることから、スズメに巣を乗っ取られたり、卵や雛を外に放り出されたりしてしまうことがある。

＜分布＞[市内] 長良地区、芥見地区の建物に数番いが繁殖していた。

[県内] 以前には美濃加茂市内で渡去前に数千羽の集合が見られていた。

[県外] 全国に夏鳥として飛来するが、南の地方では越冬した例もある。



撮影：大塚之稔

ヤマドリ

Syrmaticus soemmerringii

＜選定理由＞ 希少、営利目的

＜種の概要＞ 本州から九州のよく茂った山林に留鳥として生息している。雄は赤味のある茶褐色で縞模様のある長い尾羽が特徴である。雌はキジの雌と似ているが、褐色味が強い。暗い山林の地上で草や木の実を食べているため、見つけることは困難である。囀りの代わりに翼を強く羽ばたき「ドドド」という音を出し、「ヤマドリのほろ打ち」と呼ばれている。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 現在では百ヶヶ峰のふれあいの森などにわずかに分布。
[県内] 県全域の山林に分布。
[県外] 留鳥として本州から九州の山林に生息するが、九州には亜種コシジロヤマドリが分布する。

キジ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：大塚之稔

カイツブリ

Tachybaptus ruficollis

＜選定理由＞ 特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 留鳥として全国の河川、池、湖などで見られ、北方のものは、冬は暖地の水辺に移動して越冬する。全長 26cm で、国内で見られるカイツブリの仲間の中では最も小さい。盛んに潜水して小魚や水生昆虫などを捕らえて食べる。ヨシの茎に水草をつなげて「浮き巣」と呼ばれる巣をつくるが、水位の上昇、下降にしたがって巣も動くようになっている。親鳥は孵化した雛を背にのせて移動する行動をとる。

＜分布＞ [市内] 洞地区、岩田地区の溜池では繁殖記録がある。冬は長良川、伊自良川、鳥羽川などで見られる。
[県内] 主に美濃地方の池沼、河川に分布。
[県外] 本州中部以南では留鳥として生息しており、東北、北海道では夏鳥として飛来する。

カイツブリ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：大塚之稔

ササゴイ

Butorides striata

＜選定理由＞ 特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 夏鳥として本州以南に渡来し、河川や池で見ることができる。ゴイサギに似ているが、ゴイサギより一回り小さく、スマートに見える。「キューツ」と聞こえる声で鳴く。他のサギ類と一緒に繁殖することはなく、本種だけで河川沿いのヤナギなどにコロニーを作る。寺社の境内や駐車場を囲む樹木でも繁殖する。ゴイサギは夜行性であるが、本種は昼間も普通に行動する。

＜分布＞ [市内] 伊自良川、長良川の河川敷のヤナギで集団繁殖していたが、現在は少なくなった。
[県内] 岐阜市のほか美濃加茂市、瑞浪市、高山市で繁殖記録がある。
[県外] 本州、四国、九州に夏鳥として飛来し、北海道では稀である。

サギ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：大塚之稔

イカルチドリ

Charadrius placidus

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 本州以南の石の多い河川敷で見ることができる。コチドリが砂地や砂利の多い造成地に生息し、本種は主に河川沿いに生息することで棲み分けている。繁殖期には「ピヨ ピヨ ピヨ」と鳴きながらなわばり上空を飛翔する。小石の隙間の窪みに普通 4 個の卵を産む。外敵が近づくと、親鳥は怪我をした真似（疑傷行動）をして、外敵の気を引きつけ、卵や雛を守る。

＜分布＞ [市内] 長良川流域の砂利のある広い河川敷で繁殖している。
[県内] 県下の河川中流域から下流域の砂礫地で見られるが、稀に上流域にも分布する。
[県外] 本州、四国、九州では留鳥として生息するが、北海道では夏鳥となる。

チドリ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：大塚之稔

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 夏鳥として本州以北の低山の林で繁殖する。トビより一回り小さく、頭部が長く見えるのが特徴である。地中に巣を作るクロスズメバチの幼虫や蛹を好んで食べるため、ハチの好きなクマタカという意味の名前が付いている。渡りは瀬戸内沿岸から九州北部を通過するルートが分かっており、長野県白樺峠や伊良湖岬など、ルートの途中によく知られた観察地がある。市内の金華山もその一つである。

＜分布＞〔市内〕 渡りで通過する個体が多く観察されるほか、市北部の山林では少数が繁殖する。

〔県内〕 県下全域の丘陵帯の山林で繁殖する。

〔県外〕 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の山林に夏鳥として飛来する。

タカ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧



撮影：大塚之稔

オオタカ

Accipiter gentilis

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 留鳥として本州、北海道の低山の林で繁殖し、冬はカモなどが集まる水辺の林や農耕地でも見られる。ハシボソガラスとほぼ同じ大きさで、背が淡い褐色、体下面が白っぽく見える。古くは蒼鷹と呼ばれていたが、蒼には褐色味のある青という意味があり、オオタカがオオタカに転じたという説がある。幼鳥は全体が褐色で胸に縦斑があることで区別できる。近年、河川敷の林でも繁殖する個体が見られるようになった。

＜分布＞〔市内〕 百ヶ峰や金華山のほか、市北部の山林で少数が繁殖している。

〔県内〕 県下全域の低山の山林で繁殖するほか、近年は河川敷の林などでも繁殖する個体がいる。

〔県外〕 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の山林に留鳥として生息する。

＜特記事項＞ 「種の保存法」の国内希少野生動物種。

タカ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧



撮影：大塚之稔

フクロウ

Strix uralensis

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 九州以北の平地から低山の林に留鳥とし生息し、大木の樹洞で繁殖するほか、カラスやタカの子巣、巣箱なども利用する。本州に生息するフクロウの仲間の中では最も大きく、全長 50cm になり、灰褐色で他のフクロウ類より白っぽく見える。顔が平面的で目前に付いているのがフクロウ類の特徴である。「ホホッ ホッホッホッ」と低い声で鳴く。夜間に活動し、ネズミやカエル、小鳥類を捕食する。

＜分布＞〔市内〕 金華山や百ヶ峰のほか、市北部の山林で少数が繁殖している。

〔県内〕 県下各地の丘陵帯の山林や大木のある寺社林で繁殖している。

〔県外〕 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の巨木のある山林に留鳥として生息する。

フクロウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：大塚之稔

アオバズク

Ninox scutulata

＜選定理由＞ 特殊環境

＜種の概要＞ 夏鳥として全国の平地から低山の林に渡来する。樹洞で繁殖するため、大木のある市街地の公園や寺社林でも見られることがあるが、近年は渡来数が減少している。キジバトより一回り大きく、青葉の頃に渡ってくるからとか、羽色が青葉のようであることから名が付いている。夜間、飛び回って昆虫やコウモリ、小鳥の雛を捕食する。

＜分布＞〔市内〕 以前は市内の大木のある寺社林や公園でも繁殖が見られたが、最近では少なくなった。

〔県内〕 県下各地の丘陵帯の山林や寺社林、市街地の公園などで繁殖するが、近年、繁殖地が減少している。

〔県外〕 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の巨木のある山林や寺社林に夏鳥として飛来する。

フクロウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：大塚之稔

サンコウチョウ

Terpsiphone atrocaudata

カササギヒタキ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：—

<選定理由> 希少

<種の概要> 夏鳥として本州以南の平地から低山の茂った林に渡来し、暗い林で繁殖する。雄は 30cm もある長い尾を持ち、林内をひらひらと飛び回る。「チーチョホイ ホイホイホイ」とテンポのよい声で囀るが、「月日星」と聞きなされ、三光鳥と呼ばれている。雌は雄ほど尾羽が長くないが、雄のように囀る。

<分布> [市内] 金華山、百々ヶ峰などで僅かに繁殖する。
[県内] 県下全域の丘陵帯の山林で繁殖しているが、渡来地は少ない。
[県外] 本州、四国、九州の丘陵帯から山地帯の山林に夏鳥として飛来する。



撮影：大塚之稔

オオルリ

Cyanoptila cyanomelana

ヒタキ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—

<選定理由> 希少

<種の概要> 夏鳥として飛来し、丘陵帯から山地の主に溪流沿いの林内に生息する。見通しのよい枝先や木の梢で「ピーリーリー ピールリ ピールリギッギ」と、澄んだ声で囀る。巣は古木や岩の隙間に作るが、建物の軒に作ることもある。枝先にとまって林の空間を飛ぶ昆虫を捕え、元の枝に戻るといった捕食行動を行う。渡りの時期には市街地の公園で見られることもある。

<分布> [市内] 夏鳥として、金華山、百々ヶ峰の山林に少数が飛来する。
[県内] 美濃地方、飛騨地方ともに丘陵帯から山地帯の溪流沿いの山林に分布。
[県外] 北海道から九州にかけて夏鳥として分布。



撮影：大塚之稔

I-2-4 爬虫類

爬虫類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある17種のうち35.3%にあたる6種を選定した。

カテゴリー区別にみると、準絶滅危惧はニホンイシガメの1種、情報不足はクサガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラの5種である。なお、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類の該当種はない(表I-2-4参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3次メッシュの1/2地域メッシュ)についてみると、準絶滅危惧の種群は、伊自良川、鳥羽川、板屋川、荒田川、新荒田川、境川の各河川沿いや、山県地区、芥見地区などの67メッシュで記録がある。情報不足の種群は、準絶滅危惧とほぼ類似した地区の79メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図I-2-4に示すとおりである。

表 I-2-4 爬虫類選定種一覧

カテゴリー区分	爬虫類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	—	—
絶滅危惧Ⅱ類	—	—
準絶滅危惧	ニホンイシガメ	1
情報不足	クサガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラ	5
合計		6

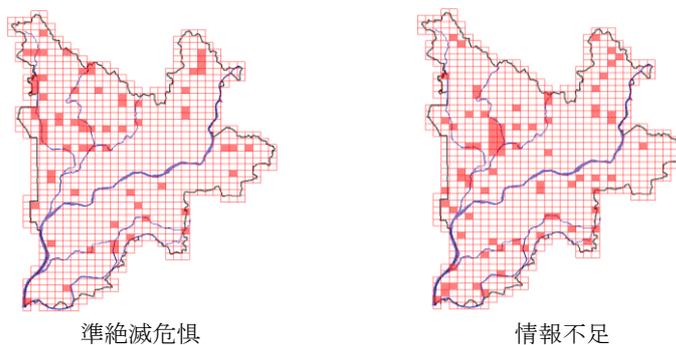


図 I-2-4 カテゴリー別分布状況(爬虫類)

<今後の課題>

- 近年分子系統学的研究や江戸時代の文献の解釈から、日本のクサガメは国外外来種であるとの説が出ている。しかしながら、生物学的研究ではサンプルの量や質が充分ではなく、また文献には別の解釈もあり、国外外来種であることが事実として示されたとは言えない。一方、西日本や中国でペットとして養殖されたクサガメが流通され、一部が野外放逐されていることは事実である。そのようなプロセスで野外定着したクサガメは、自然分布のニホンイシガメに悪影響を与えている生息場所などから順次駆除や防除をせざるを得ないであろう。
- ニホンスッポンは、食用として養殖するために人為的に移動されることが多く、養殖場から脱出した個体やその子孫が野外定着している地域もあるようだ。そのような個体は、選択的に駆除防除の対象とすべきであろう。しかし外部形態で、そのニホンスッポンが岐阜市原産のものか市外、あるいは国外から持ち込まれたものかを判別することは極めて困難である。

ニホンイシガメ

Mauremys japonica

イシガメ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変、営利目的、外来種の影響
 ＜種の概要＞ 雌は背甲長20cm前後、雄は12～14cm。背甲後部がギザギザしている。配偶期は秋と春で、冬には川や池の水底で越冬する。産卵期は6～7月で、1回当たり6～7個の楕円体の卵を年2回産む。孵化した稚ガメは夏の終わりから秋にかけて地上に現れる。市内の他のカメよりも陸を歩くことが多く、畑地や林床でも見つかる。雑食性である。
 ＜分布＞ [市内] 市内で広く見られ、北部～東部の山麓地域にも生息している。
 [県内] 美濃地方では平地から山麓部にかけて多く見られる。
 [県外] 本州、四国、九州に分布。
 ＜特記事項＞ 本種が自然分布している地域に、ペットとして飼育されていたクサガメが野外放逐されると、繁殖能力を持った交雑個体が生まれ、ニホンイシガメの個体群に遺伝子汚染をもたらす。地面に産み付けられた卵が曝される温度により性が決定されるので、産卵場所の温度環境が偏っていると、個体群の性比が偏り、個体群動態が不安定になる。



撮影：岐阜市自然環境課

クサガメ

Mauremys reevesii

イシガメ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：—

＜選定理由＞ 希少
 ＜種の概要＞ 雌は背甲長25cm弱、雄では20cm弱。背甲に3本の畝(キール)がある。頭部の側面と腹面には黒縁の黄色い斑紋があるが、雄は背甲長約14cm、7歳前後になると体全体が黒化し、その斑紋はなくなる。配偶期は秋と春で、冬には水底で越冬する。産卵期は6～7月で、1回当たり10個前後の楕円体の卵を年2回産む。孵化個体は産卵巣で越冬し、翌春地上に現れる。
 ＜分布＞ [市内] 市内で広く見られるが、北部や東部の山麓地域には少ない。
 [県内] 美濃地方の平地を中心に、県南部に分布する。
 [県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：岐阜市自然環境課

ニホンスッポン

Pelodiscus sinensis

スッポン科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：情報不足

＜選定理由＞ 希少
 ＜種の概要＞ 背甲長は30cmほどであるが、まれに40cm近くになり、体重が7kgを超えることがある。他のカメとは異なり甲には甲板が無く、背甲後部や腹甲全部が柔らかい。水掻きが発達しており泳力は強い。臆病なカメで、水底の砂に潜んでいることが多い。配偶期間は不明であるが、少なくとも春には交尾をする。初夏に10～30個の球形の卵を産む。水底で越冬する。肉食性の強い雑食性である。
 ＜分布＞ [市内] 市内で広く見られるが、ニホンイシガメやクサガメよりも確認地点はまばらである。北部や東部の山麓地域には少ない。
 [県内] 美濃地方のおもに平地の河川や池沼に分布する。美濃地方に分布。
 [県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：吉川晶子

タカチホヘビ

Achalinus spinalis

タカチホヘビ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変
 ＜種の概要＞ 全長30～60cmの小型のヘビである。背面の地色は褐色、黄褐色あるいは灰褐色で変異があり、黒い背正中線がある。光にかざすと真珠光沢が見られる。他のヘビとは異なり、背中の鱗が重なっておらず、鱗と鱗の間に隙間があり、乾燥に弱い。森や林の林床に生息し、夜行性で、ミミズを中心とした土壌動物を食べている。落ち葉や倒木の下など、浅い地中に生息するが、雨天の時には地表に現れることがある。
 ＜分布＞ [市内] 市の北東部および中央部の森で、まばらに記録がある。
 [県内] 美濃地方では山地を中心に森林のある地域に分布。飛騨地方の分布については、よく分かっていない。
 [県外] 本州、四国、九州に分布。
 ＜特記事項＞ 開発により生息場所である森や林が減少している。また残った森や林の林床も、林業の関係で広葉樹ではなく分解されにくい針葉樹の葉に覆われたり、枝の茂りすぎで林床に日光が届かなくなって地温が上がらなくなったりして、タカチホヘビにとって好適な生息場所が減少している。



撮影：高木雅紀

ジムグリ

Euprepiophis conspicillatus

ナミヘビ科

岐阜市：情報不足

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 全長は70～100cmである。背面は淡黄褐色または緑がかった淡褐色で、黒点が散在している。腹面には四角形の黒斑が市松模様状に見られる。幼蛇は背面が赤褐色もしくは濃い朱色で、黒斑があり、頭部には黒い縞模様がある。おもに山地に生息し、地中性で、ネズミ類や食虫類といった小型哺乳類を捕食する。日本固有種。

＜分布＞〔市内〕 市の北西部の山地で、まばらに記録がある。

〔県内〕 美濃地方では山地を中心に森林のある地域に分布。飛騨地方の分布については、よく分かっていない。

〔県外〕 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 山林の生息環境が本種にとって悪化しており、個体数が減っていることは間違いない。市内では北部の山地でしか確認されていないが、2008年に南接する羽島市で本種が確認されており、今後、市内での分布も精査されなければならない。



撮影：高木雅紀

シロマダラ

Dinodon orientale

ナミヘビ科

岐阜市：情報不足

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 全長30～70cmほどの小型のヘビである。背面の地色は淡灰褐色で、胴に40個前後、尾に15～20個くらいの黒褐色の横帯がある。幼蛇には、頸部に左右1対の白い斑紋がある。丘陵地から山地にかけての森や林、河畔林に生息する。ガレ場など地面の乾いたところで見かけることがよくある。爬虫類食で、小型のヘビ類やトカゲ類を捕食する。

＜分布＞〔市内〕 市の北部、および中央部の森でまばらに記録がある。

〔県内〕 美濃地方では山地を中心に森林のある地域に分布。飛騨地方の分布については、よく分かっていない。

〔県外〕 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 夜行性で小型なので、観察しにくいヘビである。今後注意深く種の分布様式や生息状況を明らかにし、市内でこの種がおかれている実態を充分に把握しなければならない。



撮影：岐阜市自然環境課

I-2-5 両生類

両生類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 16 種のうち 68.8%にあたる 11 種を選定した。

カテゴリー区別にみると、絶滅危惧Ⅰ類は岐阜市の貴重野生動植物種であるカスミサンショウウオの 1 種、絶滅危惧Ⅱ類はナゴヤダルマガエルとニホンアカガエルの 2 種、準絶滅危惧はアカハライモリとアズマヒキガエルの 2 種、情報不足はオオサンショウウオ、タゴガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル、カジカガエルの 6 種である。なお、絶滅、野生絶滅の該当種はない(表 I-2-5 参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3次メッシュの 1/2 地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧Ⅰ類の種群は、1 メッシュのみの記録である。絶滅危惧Ⅱ類の種群は、市の北西部や南東部を中心に 58 メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、市の北部から東部を中心に 50 メッシュで記録がある。情報不足の種群は、市の中部から北部を中心に 68 メッシュで記録がある。絶滅危惧Ⅰ類を除くカテゴリーごとの分布状況は図 I-2-5 に示すとおりである。

表 I-2-5 両生類選定種一覧

カテゴリー区分	両生類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	カスミサンショウウオ	1
絶滅危惧Ⅱ類	ナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエル	2
準絶滅危惧	アカハライモリ、アズマヒキガエル	2
情報不足	オオサンショウウオ、タゴガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル、カジカガエル	6
合 計		11

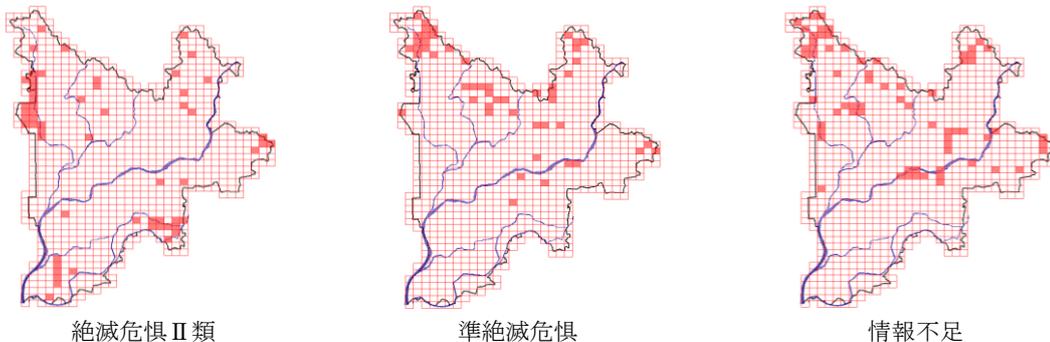


図 I-2-5 カテゴリー別分布状況(両生類)

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus

サンショウウオ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 分布限界、希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長は60～125mm。体色は淡灰褐色から暗褐色まで変異に富む。尾の上下に黄色の条線が見られる個体が多い。幼生はバランスーを持つ。卵囊はバナナ状からコイル状まで変異に富む。低地から丘陵地の樹林や竹林などの落葉下や腐植土中で生活している。水田周辺の水たまりや溝、池沼、湿原など、落葉などが堆積した比較的浅い止水や緩やかな流れのある場所に産卵する。県内での繁殖期は2～4月がピークと考えられる。ふ化した幼生は6～7月に変態、上陸する。

＜分布＞[市内] 北部の1カ所のみで生息を確認。住宅地と丘陵地間の排水溝が産卵場所。

[県内] 現時点の確実な分布は、岐阜市と揖斐川町の2カ所のみ。

[県外] 愛知県以西の本州、四国の瀬戸内海沿岸、九州など西日本に広く分布。

＜特記事項＞ 「岐阜市自然環境の保全に関する条例」の貴重野生動物種。



撮影：高木雅紀

ナゴヤダルマガエル

Pelophylax porosus brevipodus

アカガエル科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄35～62mm、雌37～73mmですんぐりした体型であり足も短い。正中線を欠く個体が多い。体色の雌雄差はなく変異に富み、背面の黒色の斑紋は丸く独立する。低地の水田とその周辺部に生息する。水田などの水辺から離れることはなく、冬眠個体も水田の中やその周辺の土中などで発見される。繁殖期は比較的長く、5～7月。産卵は水田やその周辺の止水で行われる。2度に分けて産卵する個体もある。

＜分布＞[市内] 都市部を除く水田地帯に分布。

[県内] 美濃地方を中心に分布。

[県外] 長野県伊那谷、東海、近畿、瀬戸内地方に分布。

＜特記事項＞ トノサマガエルとの交雑個体が発見されている。



撮影：高木雅紀

ニホンアカガエル

Rana japonica

アカガエル科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄34～63mm、雌43～67mmで、体色は赤褐色から黄褐色まで変異に富む。背中の中線にある隆条(背側線)は鼓膜の後ろで曲がらず直線的で、腹面は黄白色で斑紋はない。幼生は背面に1対の黒点があるものが多い。平地ないしは丘陵地の樹林や竹林に生息し、山地には少ない。繁殖は日当たりのよい水の残った水田や湿原で行う。繁殖期は1～3月で、市内でのピークは2月頃である。成体は繁殖活動後、春眠し、5月頃に活動し始める。幼生は5～6月頃に変態、上陸する。

＜分布＞[市内] 北部を中心に分布。

[県内] 美濃地方に分布。

[県外] 本州、四国、九州、隠岐、大隅諸島に分布。



撮影：高木雅紀

アカハライモリ

Cynops pyrrhogaster

イモリ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 全長は70～115mm。背面は黒または暗褐色で、名前の由来でもあるように腹面に赤色の斑紋や不規則な模様がある。皮膚にはフグ毒のテトロドトキシンに近い神経毒を有するが、触れただけでは害はない。低地から山地の池沼や水田、湿原の水溜まりや緩やかな流れの河川などに生息する。繁殖期は4～7月。雌は、求愛行動をする雄が落とした精包を体内に取り込み、体内受精した後、水草などに1個ずつ産卵する。

＜分布＞[市内] 中北部の山沿いを中心に分布。平野部では激減。

[県内] 県内全域に分布。

[県外] 本州、四国、九州、佐渡島、淡路島、隠岐、宍岐、五島列島、天草諸島、甌島などに分布。

＜特記事項＞ 平野部では激減している。



撮影：高木雅紀

アズマヒキガエル

Bufo japonicus formosus

ヒキガエル科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 環境改変

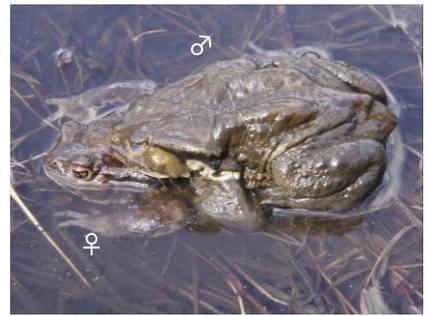
＜種の概要＞ 体長は雄 43～161mm、雌 53～162mm で、体色は灰褐色、茶褐色、黄褐色など、個体により様々である。四肢は比較的短く、ずんぐりとしており跳躍力は弱く、水かきは小さい。目の後ろにある耳腺や背中にあるイボ状の突起からは、強心作用を持つステロイドを含む白い毒液を分泌し、外敵から身を守り、また、有害な細菌の繁殖を防いでいる。触れただけでは直ちに害はないが、触れた場合は手洗いをした方がよい。市内での繁殖期のピークは3月頃である。水たまりや水田、湿原や池沼などで、集団で繁殖行動が展開される。雌の数に比べて雄の数が多く、1匹の雌に多くの雄が群がる様子は、「蛙合戦」と呼ばれている。紐状の卵塊は5m以上になることもあり、卵数は、1,500～8,000個。オタマジャクシは真っ黒で、6月頃に変態し、体長8mm前後の幼体が上陸する。

＜分布＞〔市内〕 金華山周辺、市北部で記録がある。

〔県内〕 県内全域に分布。

〔県外〕 本州(近畿地方～東北地方)に分布。

＜特記事項＞ 平野部では激減し、絶滅に近い状態であると考えられる。繁殖場所と非繁殖期を過ごす樹林や竹林が残されていても、道路などで移動経路が分断されてしまうことも減少の大きな要因であると考えられる。



撮影：高木雅紀

オオサンショウウオ

Andrias japonicus

オオサンショウウオ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 分布限界、希少

＜種の概要＞ 全長は300～1,500mm。世界最大の両生類である。体は茶褐色で黒色の斑紋があるが、変異が大きい。頭部などにイボ状の突起がある。眼は小さい。卵塊は数珠状である。流水性で河川の中上流部に生息する。内では、定着している可能性は低いものと考えられ、上流から流されてきたものが長良川やその支流に迷い込んだ個体が発見される。市内の長良川での幼生の発見記録もある。繁殖は上流部で行われることが多く、繁殖期は8月下旬～9月で、8月上旬頃から河川を遡上し始め、上流部の河岸の横穴で産卵する。

＜分布＞〔市内〕 長良川およびその支流に分布。

〔県内〕 長良川流域および飛騨川流域などに分布。人為的に移入された場所も知られている。

〔県外〕 本州(岐阜県以西)、四国、九州の一部に分布。

＜特記事項＞ 近年、京都府や三重県などでチュウゴクオオサンショウウオや本種との交雑種がみつかり、岐阜県においても監視が必要である。「文化財保護法」の国指定特別天然記念物。「種の保存法」の国際希少野生動物種。



撮影：矢追雄一(郡上市産)

タゴガエル

Rana tagoi tagoi

アカガエル科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄 30～58mm、雌 31～54mm。背面の体色は明褐色、褐色、灰褐色など変異に富み、腹面は喉から胸にかけて黒褐色の小斑が密にある。体形は比較的幅広い。成体は、樹林や竹林などの湿った場所に生息し、3～5月に溪流の伏流水中や湿原の緩やかな流れなどの岩の隙間や落ち葉の下などで産卵する。繁殖期には、姿は見えないが、岩の下などから「グルクククク、グルグル」と、声だけが聞こえてくることがある。卵数は30～160個ほどで、卵黄を多く含む比較的大きな卵を産む。幼生は餌を食わずに、卵黄の栄養分のみで成長し、変態する。

＜分布＞〔市内〕 北部の山沿いの地域を中心に分布。

〔県内〕 平野部を除く全域に分布。

〔県外〕 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 近い将来、いくつかの種に分けられる可能性がある。



撮影：岐阜市自然環境課

ツチガエル

Glandirana rugosa

アカガエル科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄 37～46mm、雌 44～53mm。体色は灰褐色から暗褐色で、不明瞭な暗色の小斑が点在する。正中線をもつものもある。背面には多数の短い隆条があり、他のカエルと違って皮膚の表面がヌルヌルしていない。そのため、「イボガエル」と呼ばれることが多い。触れると悪臭を放つことがあり、本種に襲いかかったニホンマムシが、悪臭を放たれて本種を吐き出したのを観察したことがある。水田、池沼や河川周辺の水辺に生息し、倒木の下や土中、池沼や河川の水底や土中で冬眠する。また、幼生で越冬するものが多い。繁殖期は5～9月で、10～60個ほどの卵を含む卵塊を複数回産卵し、合計で約1,000個程度産卵する。

＜分布＞〔市内〕 金華山周辺と北西部を中心に分布。南部では激減している。

〔県内〕 全域に分布しているが、平野部では激減している。

〔県外〕 本州、四国、九州、隠岐、壱岐、五島列島などに分布。



撮影：高木雅紀

ヤマアカガエル

Rana ornativentris

アカガエル科

岐阜市：情報不足

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄 42～60mm、雌 36～78mm で、背面の体色は赤褐色、暗褐色、淡褐色など変異に富む。背中の中肋にある隆条(背側線)は直線的ではなく、体側、下顎、喉などに黒斑のある個体が多いことなどからニホンアカガエルと区別できる。成体は山地の樹林や竹林などの湿った場所で生息する。市内では、2月頃に、比較的浅く日当たりのよい山沿いの湿原や水田などで産卵する。

＜分布＞[市内] 市北部に分布。
[県内] 県内全域の山地または山沿いに分布。
[県外] 本州、四国、九州、佐渡島などに分布。

＜特記事項＞ 山沿いの水田が耕作放棄されたり、イノシシなどに荒らされたりしていることが、本種の減少の一因であると考えられる。



撮影：高木雅紀

モリアオガエル

Rhacophorus arboreus

アオガエル科

岐阜市：情報不足

岐阜県：情報不足

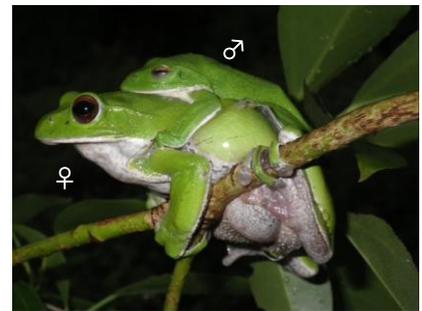
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 体長は雄 42～60mm、雌 59～82mm である。指先の吸盤が大きい。背面は明緑色から暗緑色で、赤褐色から黒色の斑紋を有する個体もある。虹彩は赤みがかかる。卵塊は泡状で直径 100mm 前後である。成体は普段は森林の樹上で生活し、人目につきにくい。繁殖期には池沼や湿原、水田などに現れ、水面上に張り出した枝や、草などに、白っぽい泡状の卵塊を生み付ける。孵化した幼生は降雨時などに下の水面へ落下し、止水中で成長する。

＜分布＞[市内] 北西部の山沿いと金華山周辺に分布。
[県内] 県内全域の低地から亜高山帯に分布するが、平野部にはあまり生息していない。
[県外] 本州、佐渡島などに分布。

＜特記事項＞ 北西部では隣接する本巢市などと連続的に分布しているが、金華山周辺の個体群は人為的な移動による分布の可能性も考えられる。



撮影：高木雅紀

カジカガエル

Buergeria buergeri

アオガエル科

岐阜市：情報不足

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 体長は雄 37～44mm、雌 49～69mm で、灰褐色から褐色など、個体により様々である。背面には顆粒状の小さな突起が点在し、不規則な淡い暗褐色の模様がある。山地の水のきれいな瀬のある河川やその支流、周辺の森林に生息するが、市内では長良川沿いで発見される。関市より上流では繁殖も確認されており、市内でも繁殖の可能性がある。4～7月に雄は浅瀬に集まり、水際や水面から出た石の上で高くきれいな声で鳴く。水中の石の下などに 50～80個の卵を含む卵塊を数カ所に分けて産卵する。河川周辺の石の下などで冬眠する。

＜分布＞[市内] 金華山付近より上流の長良川沿い。
[県内] 南部の平野部を除く県内全域の山地、山沿いの河川周辺に分布。
[県外] 本州、四国、九州、五島列島に分布。

＜特記事項＞ 全国各地で、本種を清流のシンボルとして保護活動が展開されている。



撮影：江頭幸士郎

I-2-6 魚類

魚類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 67 種のうち 53.7%にあたる 36 種を選定した。

カテゴリー区別にみると、野生絶滅としてウシモツゴの 1 種を挙げた。また、絶滅危惧 I 類はニホンウナギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、カワバタモロコ、デメモロコ、ハリヨ、トウカイヨシノボリの 7 種、絶滅危惧 II 類はスナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種、ヤリタナゴ、アブラボテ、アマゴ(サツキマス)、カマキリ(アユカケ)、カジカ小卵型の 7 種、準絶滅危惧はヌマムツ、タカハヤ、カワヒガイ、イトモロコ、ニシシマドジョウなど 17 種、情報不足はコイ、カワアナゴ、マハゼ、アシシロハゼの 4 種である。なお、絶滅の該当種はない(表 I-2-6 参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3 次メッシュの 1/2 地域メッシュ)についてみると、野生絶滅の種群は 1 メッシュのみ記録がある。絶滅危惧 I 類の種群は、市の中西部を中心に 46 メッシュで記録がある。絶滅危惧 II 類の種群は、長良川以北を中心に 102 メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、市の広範囲にわたる 249 メッシュで記録がある。情報不足の種群も、市の広範囲にわたる 92 メッシュで記録がある。野生絶滅を除くカテゴリーごとの分布状況は図 I-2-6 に示すとおりである。

表 I-2-6 魚類選定種一覧

カテゴリー区分	魚類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	ウシモツゴ	1
絶滅危惧 I 類	ニホンウナギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、カワバタモロコ、デメモロコ、ハリヨ、トウカイヨシノボリ	7
絶滅危惧 II 類	スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種、ヤリタナゴ、アブラボテ、アマゴ(サツキマス)、カマキリ(アユカケ)、カジカ小卵型	7
準絶滅危惧	ヌマムツ、タカハヤ、カワヒガイ、イトモロコ、ニシシマドジョウ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、アカザ、アユ(天然遡上)、ボラ、スズキ、ドンコ、ヌマチチブ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ	17
情報不足	コイ、カワアナゴ、マハゼ、アシシロハゼ	4
合 計		36

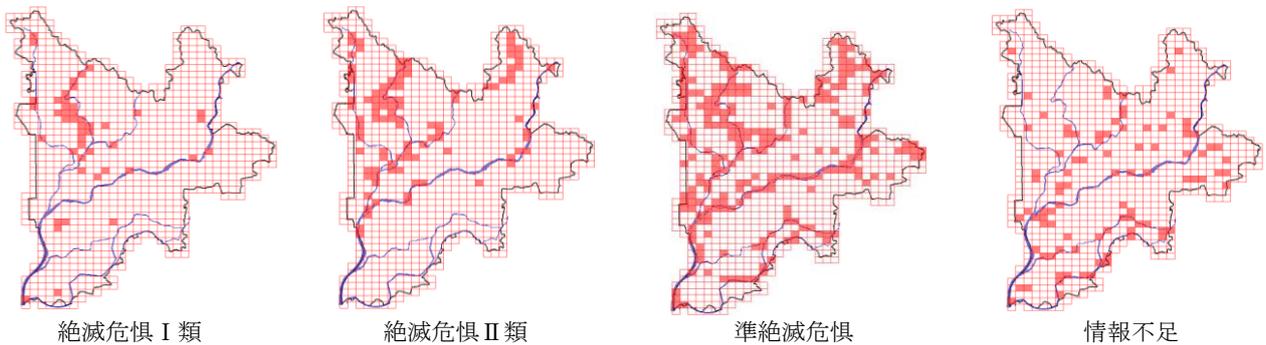


図 I-2-6 カテゴリー別分布状況(魚類)

ウシモツゴ*Pseudorasbora pumila* subsp.

コイ科

岐阜市：野生絶滅
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧ⅠA類**<選定理由>** 希少、環境改変、外来種の影響**<種の概要>** 全長8cm程度。口が小さく上を向き、口ひげは無い。側線は不完全で胸鰭上方までしか達しない。岐阜県、愛知県、三重県の東海3県固有で、平野部の水路からは絶滅し、現在では中山間地のため池にのみ生息する。近年の移殖放流を除くと野生生息地は10地点以下しか残されていない。**<分布>** [市内] 私邸の庭池に1カ所のみ。
[県内] 美濃地方のため池3カ所のみ。
(保護用の放流池、ピオトープ等は除く)
[県外] 愛知県、三重県そして岐阜県の東海3県に生息する固有種。**<特記事項>** 市内では、水田水路の改変、ため池への外来魚の放流などによって、野外では絶滅したと考えられる。「岐阜県野生生物保護条例」の指定希少野生生物。

撮影：向井貴彦(関市産)

ニホンウナギ*Anguilla japonica*

ウナギ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：—
環境省：絶滅危惧ⅠB類**<選定理由>** 希少、特異生態、環境改変**<種の概要>** 全長60cm程度。成魚は降海してグアム島近辺まで移動して産卵する。生まれた卵・仔魚は黒潮に乗って日本沿岸に到達して河川に遡上、数年間かけて成長する。天然遡上以外に、河口域で遡上を始めた「シラスウナギ」を捕獲して育てた個体が漁業用に放流されている。**<分布>** [市内] 市内に広く分布するが、個体数は多くない。
[県内] 県内河川およびため池などに分布。
[県外] 北海道～九州に分布。**<特記事項>** 日本沿岸への稚魚の来遊が激減しており、河口域の人為的改変による幼魚の生育場の消失や、河川改修による成魚の生息環境の減少、乱獲が減少要因と考えられている。

撮影：向井貴彦

イチモンジタナゴ*Acheilognathus cyanostigma*

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧ⅠA類**<選定理由>** 希少、特異生態、環境改変、営利目的**<種の概要>** 全長8cm程度。口ひげは短く、タナゴ類の中では細身の体形。肩部から尾柄部までつながる明瞭な青緑色の縦帯がある。繁殖期の雄は腹部や臀鰭が桃色になる。湖沼や流れの緩やかな河川に生息するとされる。**<分布>** [市内] 一部の河川にのみ分布。
[県内] 美濃地方の河川、ダム湖やわんどに分布。
[県外] 濃尾平野から近畿地方に分布。**<特記事項>** 市内で確認される個体数は極めて少ない。河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少、愛好家等による過剰な採集が、本種の主な減少要因と考えられる。また、市内の個体群は、すでに琵琶湖産などの放流による遺伝的攪乱もしくは外来個体群への置き換わりが生じている。

撮影：向井貴彦

シロヒレタビラ*Acheilognathus tabira tabira*

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類**<選定理由>** 希少、特異生態、環境改変、営利目的**<種の概要>** 全長8cm程度。口ひげは短く、体高はやや高い。肩部に暗青色の斑点がある。繁殖期は春で、雄の婚姻色は主に青緑色で腹部が黒く、臀鰭外縁が白くなる。水田周辺の水路や、河川下流域、わんどなどに生息する。**<分布>** [市内] 一部地域のごく小規模な河川・水路にのみ分布。
[県内] 木曾川水系のダム湖、木曾三川の下流周辺に分布。
[県外] 濃尾平野から山陽地方に分布。**<特記事項>** 市内で確認される個体数は少ない。河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少、愛好家等による過剰な採集が本種の主な減少要因と考えられる。また、市内の個体群は、すでに琵琶湖産などの放流による遺伝的攪乱が生じている。

撮影：向井貴彦

カワバタモロコ*Hemigrammocyppris rasborella*

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類**<選定理由>** 希少、環境改変、外来種の影響**<種の概要>** 全長 4cm 程度。小型のコイ科魚類で、繁殖期の雄は金色を帯びた婚姻色を表す。繁殖期は初夏で、抽水植物などの茂った水路で産卵する。**<分布>** [市内] 北西部と南東部でわずかに分布。
[県内] 美濃地方中山間地から平野部の河川、ため池に分布。
[県外] 静岡県～九州北部に分布。**<特記事項>** 水田水路の環境改変と溜池への外来魚の放流が主な減少要因と考えられる。市内での生息数は極めて少ないが、産地不明の個体の放流が散発的に生じている。岐阜県では輪之内町が条例で保護している。

撮影：寺町茂

デメモロコ*Squalidus japonicus japonicus*

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 全長 10cm 程度。コウライモロコやイトモロコに類似するが、口ひげが短く、頬部が広く、頭部背面がやや盛り上がった体形をしている。野外で採集した直後の体色は銀色が強く、体側には青緑の縦条が目立つ。流れの緩やかな泥底の水路に生息するが、生活排水などで汚染された環境にはいない。**<分布>** [市内] 伊自良川水系の一部地域にのみ分布。
[県内] 美濃地方の一部の水田地帯の水路などに限って分布する。
[県外] 濃尾平野および琵琶湖淀川水系にのみ分布。**<特記事項>** 河川改修による環境改変が主な減少要因と考えられる。市内での分布は非常に狭い範囲に限られている。

撮影：向井貴彦

ハリヨ*Gasterosteus aculeatus* subsp. 2

トゲウオ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧ⅠA類**<選定理由>** 希少、特殊環境、環境改変**<種の概要>** 全長 5cm 程度。背鰭の 3 本の棘には鱗膜が発達しない。鱗は無く、体前部に鱗板がある。主に湧水の流れる河川に生息する。滋賀県と岐阜県のハリヨは遺伝的にも形態的にも異なっている。**<分布>** [市内] 主に伊自良川に分布。
[県内] 岐阜・西濃地方の、主に湧水のある河川に分布。
[県外] 岐阜県のほか三重県(絶滅)、滋賀県に分布。**<特記事項>** 湧水の減少や平野部の市街化、河川改修が減少要因と考えられる。市内の寺社の池と市街地の河川にも記録があるが、それらは人為的な放流の可能性が高い。「岐阜県野生生物保護条例」の指定希少野生生物。

撮影：川瀬基弘

トウカイヨシノボリ*Rhinogobius* sp. T0

ハゼ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧**<選定理由>** 希少、環境改変、外来種の影響**<種の概要>** 全長 5cm 程度。第一背鰭が伸長せず、体に鞍状もしくは不定形の暗色斑がある。**<分布>** [市内] 西北部のため池にのみ分布。
[県内] 美濃地方の丘陵地のため池、水枯れしない水田地帯の水路に分布。
[県外] 岐阜県のほか愛知県、三重県の東海 3 県に生息する固有種。**<特記事項>** 圃場整備による湿地の消失、それによって孤立した生息地へのブラックバスの放流、水路のコンクリート化、池の改修による水抜き、国内の他地域から持ち込まれたヨシノボリ類との交雑などが減少要因である。

撮影：向井貴彦

スナヤツメ北方種

Lethenteron sp. N

ヤツメウナギ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 全長 15cm 程度。眼の後ろに丸い鰓孔が 7 対あるため、八つの眼があるように見えることからヤツメウナギと呼ばれる。幼生期は目が無く、数年間砂泥中に潜って藻類や有機物を食べて成長する。秋に変態して目が形成された成魚は餌をとらずに越冬し、翌春産卵する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 伊自良川水系から長良川本流の下流域、湧水河川に分布。
[県内] 美濃地方の平野部から中山間地の湧水のある小河川に分布。
[県外] 滋賀県以东の本州と北海道に分布。

＜特記事項＞ 平野部の湧水や伏流水に依存するため、小河川の改修や住宅地開発によって生息地が減少したと考えられる。岐阜県博物館には岐阜市加納長刀堀産スナヤツメ（採集年不明）の標本があり、かつては市内中心部の湧水にも生息していた可能性がある。



撮影：向井貴彦

魚類

スナヤツメ南方種

Lethenteron sp. S

ヤツメウナギ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 15cm 程度。形態および生活史はスナヤツメ北方種とほぼ同様。北方種と南方種の種判別には DNA 分析が有効であるが、北方種は成魚の目の虹彩が黒く、南方種は虹彩が銀色の傾向がある。岐阜県内では河川本流・支流の砂底に生息することが多い。

＜分布＞ [市内] 伊自良川水系及び長良川本流に分布。
[県内] 飛騨・美濃地方の山間地から中山間地の河川に分布。
[県外] 東北地方以南の本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 河川上・中流域の流れの緩やかな砂底に生息するため、水質悪化に弱いと考えられる。市内での採集事例が少なく、希少と考えられるが、砂中に潜むために生息量が過小評価されている可能性もある。



撮影：岐阜市自然環境課

ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 特異生態、環境改変、営利目的

＜種の概要＞ 全長 8cm 程度。やや細長い体形のタナゴ類で、側線は完全。口ひげは明瞭。繁殖期は春。非繁殖期の体色は銀色だが、繁殖期の雄の婚姻色は背と腹が黒く、腹部は緑色を帯び、臀鰭が鮮やかな赤に色づく。マツカサガイに産卵するとされる。

＜分布＞ [市内] 北部の支流に比較的広く分布。
[県内] 美濃地方の河川や水路に分布。
[県外] 東北地方から九州北部に分布。

＜特記事項＞ 河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少が、本種の主な減少要因と考えられる。愛好家等による採集の影響も考えられる。



撮影：向井貴彦

アブラボテ

Tanakia limbata

コイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 特異生態、環境改変、営利目的

＜種の概要＞ 全長 5cm 程度。ヤリタナゴに近縁だが、やや体高が高い。側線は完全で口ひげは明瞭。繁殖期は春。幼魚の体色は銀色だが、鰭がやや褐色を帯びる。繁殖期の雄の婚姻色は黄褐色で臀鰭は黒く染まる。ヤリタナゴよりも上流側、もしくは小規模な水路に多い。タガイやイシガイに産卵するとされる。

＜分布＞ [市内] 北部の支流に比較的広く分布。
[県内] 美濃地方の河川や水路に分布。
[県外] 濃尾平野以西の本州、四国、九州北部に分布。

＜特記事項＞ 河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少が、本種の主な減少要因と考えられる。愛好家等による採集の影響も考えられる。



撮影：向井貴彦

アマゴ (サツキマス)*Oncorhynchus masou ishikawae*

サケ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 全長 30cm 程度。体に朱点が散在し、幼魚および河川に留まる個体(アマゴ)はパーマークと呼ばれる暗色の小判型の斑紋が体側に並ぶ。降海してから河川に遡上する個体(サツキマス)は全身が銀色で、繁殖期(秋)になると婚姻色に変化する。**<分布>** [市内] 主に長良川に分布。
[県内] 主に河川の上・中流域。
[県外] 神奈川県以西の太平洋岸を四国までと、瀬戸内海周辺地域に分布する。**<特記事項>** 市内では、降海型のサツキマスと河川残留型のアマゴの両方が長良川で見られるが、数は多くない。上流域の産卵・生育場所の環境悪化や、下流域の環境改変による回遊阻害の影響が考えられる。

撮影：二村凌

カマキリ (アユカケ)*Cottus kazika*

カジカ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 全長 20cm 程度。頭部が大きく、鰓蓋の棘が鉤状に発達する。鱗は無い。魚食性で、冬になると沿岸まで下って産卵する。生まれた仔魚は沿岸で生育した後、春になると河川に遡上する。**<分布>** [市内] 長良川にわずかに分布。
[県内] 木曾三川の中・下流に分布。
[県外] 東北地方から九州に分布。**<特記事項>** 長良川河口堰運用前の 1992 年 8 月に建設省(当時)がおこなった調査では、岐阜市から美濃市の範囲で 100 尾近く採集されているが、現在では極めて少ない。下流域の環境改変による回遊阻害の影響が考えられる。

撮影：向井貴彦

カジカ小卵型*Cottus reinii*

カジカ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 全長 15cm 程度。アユカケよりも頭部が小さく、鰓蓋の棘は小さい。鱗は無い。冬に河川で産卵し、生まれた仔魚は沿岸まで流下して生育した後、春になると河川に遡上する。生まれた仔魚が海に下らず河川上流域で一生を過ごすカジカ大卵型とは胸鰭条数で区別できる。**<分布>** [市内] 長良川本流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域に分布。
[県外] 本州と四国の太平洋側に分布。**<特記事項>** 現在の長良川では個体数が少ない。下流域の環境改変による回遊阻害の影響が考えられる。

撮影：向井貴彦

ヌマムツ*Candidia sieboldii*

コイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—**<選定理由>** 環境改変**<種の概要>** 全長 15cm 程度。カワムツに類似するが、側線鱗数が多く(53 枚以上)、胸鰭と腹鰭の前縁が朱色を帯び、やや目が小さく顔つきが尖っている。中山間地から平野部の流れの緩やかな水路に多く見られる。**<分布>** [市内] 北部から西部の河川に分布。
[県内] 美濃地方平野部に分布。
[県外] 静岡県以西から九州北部まで分布。**<特記事項>** 河川改修による環境改変が、本種の主な減少要因と考えられる。

撮影：向井貴彦

タカハヤ

Phoxinus oxycephalus jouyi

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。鱗は細かく、体側の縦条が不明瞭で全体に小黒点が散在する個体が多い。尾柄は太く、ずんどうな体形をしている。河川上流域や丘陵地の細流に生息する。

＜分布＞ [市内] 北部に分布。
[県内] 山地や中山間地の河川に広く分布。
[県外] 静岡県・福井県以西に分布。

＜特記事項＞ 市内では丘陵地の細流に生息が偏っており、開発や水路の三面コンクリート化によって生息地が減少する可能性がある。

コイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

カワヒガイ

Sarcocheilichthys variegatus variegatus

＜選定理由＞ 特異生態、環境改変

＜種の概要＞ 全長 12cm 程度。若魚は体側に明瞭な黒色縦条があるが、成長すると不明瞭になる。成熟した雄の婚姻色は頬部が桜色、背側が青く、体側が黄緑色を帯び、県内では地方名「さくらばえ」とも呼ばれる。成熟した雌は 1～2cm の産卵管が伸びており、二枚貝の中に産卵する。濃尾平野の在来個体群は他地域とは遺伝的に大きく異なる。

＜分布＞ [市内] 長良川および比較的規模の大きな支流に分布。
[県内] 美濃地方の河川中流域、支流に分布。
[県外] 濃尾平野～九州に分布。

＜特記事項＞ 現在のところ生息数は多いが、産卵のために必要な淡水二枚貝類が減少しているため、存続基盤が脆弱である。

コイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧



撮影：岐阜市自然環境課

イトモロコ

Squalidus gracilis gracilis

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 8cm 程度。口ひげが明瞭。体側中央部に比較的明瞭な黒色縦条がある。河川の中流域や支流に生息し、やや流れのある砂泥底を好む。コウライモロコに類似するが、より小規模な河川、もしくはより上流側に生息する。

＜分布＞ [市内] 伊自良川水系や荒田川水系に分布。
[県内] 美濃地方の河川中流域、支流。長良川本流の場合は関市より上流に多く分布。
[県外] 濃尾平野～九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では、市街地の水路においても生息する。長良川からの伏流水の影響などによって生息が維持されていると考えられる。

コイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：向井貴彦

ニシシマドジョウ

Cobitis sp. BIWAE type B

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。体側に黒色の点列があり、トウカイコガタスジシマドジョウに類似するが、背面の暗色斑が規則的に配列し、体側中央部が青みを帯びることや、尾鰭の模様などで区別できる。やや流れのある砂底の河川に生息する。

＜分布＞ [市内] 長良川本流および比較的規模の大きい支流に分布。
[県内] 美濃地方の河川中流域に分布。
[県外] 中部地方から山陰地方に分布。

＜特記事項＞ 比較的水のきれいな砂底に生息するため、水質悪化に弱いと考えられる。市内での分布地点はトウカイコガタスジシマドジョウよりも少ない。

ドジョウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

トウカイコガタスジシマドジョウ

Cobitis minamorii tokaiensis

ドジョウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 6cm 程度。水田地帯の水のきれいな砂泥底の水路に多く見られる。体側に黒色縦条もしくは点列があり、ニシシマドジョウに類似するが、雄の胸鰭骨質板の形状や、背面の暗色斑が(特に後半で)やや不規則になること、尾鰭の模様などで区別できる。

＜分布＞ [市内] 水田周辺の水路に分布。
[県内] 美濃地方平野部の水田水路や、河川のわんどに分布。
[県外] 静岡県西部から三重県に分布。

＜特記事項＞ 市街地の拡大による水田地帯の減少や水路の環境改変によって生息地が減少している。学名の模式標本は三重県産だが、和名の模式標本は岐阜市産(三重大学水産実験所所蔵標本)である。



撮影：古田莉奈

ホトケドジョウ

Lefua echigonia

ドジョウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 5cm 程度。ドジョウやシマドジョウ類とは違って鼻孔の近くに1対のひげがあり、ずんぐりした体形をしている。体色は褐色で細かな暗色小点が散在する。ほかの魚類が生息しないような丘陵地の小河川や細流に生息する。

＜分布＞ [市内] 主に北西部の丘陵地に分布。
[県内] 美濃地方の中山間地の小河川、水路に分布。
[県外] 東北地方から兵庫県に分布。

＜特記事項＞ 丘陵地の宅地開発や高速道路等の建設によって、生息地が失われ続けている。「岐阜市自然環境の保全に関する条例」の貴重野生動物種。



撮影：寺町茂

ナマズ

Silurus asotus

ナマズ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 50cm 程度。国内に広く分布するが、自然分布域は不明。鱗が無く、ひげが2対(幼魚は3対)。口は大きく、下顎が上顎よりも前に出ている。眼は小さく、背鰭も小さい。河川の中・下流域や湖沼に生息し、初夏には水田にも遡上して産卵する。雄より雌の方が大型になる。

＜分布＞ [市内] 河川の本流、支流に広く分布。
[県内] 美濃地方の河川中・下流域、水田地帯に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

＜特記事項＞ 産卵場所となる水田地帯の減少や環境改変、成魚の生息地である河川から水田地帯への移動阻害などが減少要因となる。漁業対象種であり、放流が行われているため、生息数が多く見えている可能性がある。



撮影：向井貴彦

アカザ

Liobagrus reinii

アカザ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。全身が赤褐色で、ひげが4対ある。主に河川の上流から中流域に生息する。胸鰭と背鰭の棘が鋭く、刺されると強く痛む。5～6月頃に石の下でゼリー質に包まれた黄色い卵を産む。

＜分布＞ [市内] 長良川本流および丘陵地の支流に分布。
[県内] 河川の上・中流域に広く分布。
[県外] 秋田県以南の本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 長良川本流においては生息数が多いが、支流の河川改修によって生息地が減少している。



撮影：向井貴彦

アユ (天然遡上)*Plecoglossus altivelis altivelis*

アユ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—**<選定理由>** 環境改変**<種の概要>** 全長 20cm 程度。口には付着藻類を食べるための細かい歯があり、体側前方に黄色い斑紋がある。春～夏は河川上・中流域で主に付着藻類を食べて成長し、秋に中流域下部まで降下して産卵する。孵化した仔魚は沿岸域まで下り、冬季にプランクトンを食べて成長した後に河川に遡上する。**<分布>** [市内] 長良川を中心に分布。
[県内] 夏季は放流によって県内全域の河川上・中流域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。**<特記事項>** 長良川における漁獲量は 1990 年代半ば以降に激減している。市内が主な産卵場所であるが、孵化仔魚が海まで辿り着けずに死滅している可能性が示されており、漁業者によって年 1 億粒の受精卵の下流域への運搬事業が行われている。

撮影：向井貴彦

ボラ*Mugil cephalus cephalus*

ボラ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 市内で確認されるのは全長 20cm 程度のものが多い。成長すると 50cm 程度になる。一般的に海水魚と思われがちだが、夏季には河川に遡上する個体も多く、輪中地帯の水路や岐阜市南部の河川でも見られる。群れで遊泳しながら泥底の有機物などを食べる。成魚や幼魚は沿岸や汽水域にいるものと思われる。**<分布>** [市内] 長良川本流、荒田川、境川に分布。
[県内] 木曾三川の下流域に分布。
[県外] 日本列島の沿岸から河川に広く分布。**<特記事項>** 過去の文献から市内の長良川に多数生息していたと考えられるが、現在は個体数が少ない。

撮影：向井貴彦

スズキ*Lateolabrax japonicus*

スズキ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—**<選定理由>** 希少、環境改変**<種の概要>** 成長すると 90cm 程度になるが、河川に遡上するのは全長 20cm 以下の個体が多い。吻は長く、顔は尖っており、口が大きい。背鰭が第一背鰭と第二背鰭に分かれている。体色はほぼ銀灰色。成魚は内湾や沿岸に生息し、幼魚や若魚が河川によく進入して抽水植物帯でエビや小魚を捕食する。**<分布>** [市内] 長良川本流に分布。
[県内] 木曾三川の下流域に分布。
[県外] 北海道南部から九州に分布。**<特記事項>** 市内では、かつては鮎漁の網に毎夜かかる程いとされる。1990 年頃に伊自良川で採集された標本もあるが、1990 年代半ば以降は長良川本流で稀にしか捕獲されていない。

撮影：向井貴彦

ドンコ*Odontobutis obscura*

アカザ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—**<選定理由>** 環境改変**<種の概要>** 全長 10cm 程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。やや小規模で水のきれいな砂礫質の抽水植物が茂った河川に生息し、大きめの石の下面などに産卵する。エビや小魚などを捕食する。**<分布>** [市内] 主に北部の小規模河川に分布。
[県内] 美濃地方の平野部から中山間地の河川に分布。
[県外] 愛知県から九州に分布。**<特記事項>** 水質が良い河川で、砂泥底に産卵床となる大きめの石などの障害物が必要。河川改修によって河床が平坦化されることなどが原因で減少している。

撮影：梅村啓太郎

ヌマチチブ

Tridentiger brevispinis

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。褐色から黒色のハゼで、頬に青白い斑点がある。雄は第一背鰭の棘が伸長する。川底の付着藻類や小動物を食べる。内湾の汽水域から河川中流域まで生息する。仔魚期に海まで下って成長した後に河川を遡上する。

＜分布＞ [市内] 長良川本流と武儀川に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域と一部の支流に分布。ダム湖は琵琶湖からの二次的移入。
[県外] 北海道～九州に分布。

＜特記事項＞ 長良川下流域の環境変化によって、河口からの遡上が減少していると考えられる。

ハゼ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

シマヨシノボリ

Rhinogobius nagoyae

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 7cm 程度。腹鰭は吸盤状。体側に暗色横帯があり、頬部に朱色のミミズ状の斑紋がある。繁殖期の雌の腹部は鮮やかなコバルトブルーを呈する。仔魚期に海まで下って成長した後に河川を遡上する。

＜分布＞ [市内] 長良川本流および武儀川に分布。
[県内] 長良川と揖斐川の中・下流域に分布。
[県外] 本州～琉球列島に分布。

＜特記事項＞ 長良川下流域の環境変化によって、河口からの遡上が減少していると考えられる。

ハゼ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

ゴクラクハゼ

Rhinogobius giurinus

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。腹鰭は吸盤状。体色は白っぽく、砂地に隠れやすい模様をしている。体側に黒色斑が並び、小さな輝青点が散在する。仔魚期に海まで下って成長した後に河川に遡上する。

＜分布＞ [市内] 長良川と周辺の支流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域と周辺の支流に分布。
[県外] 西南日本の河川の汽水域から中・下流域に生息。

＜特記事項＞ 長良川では個体数の変動が大きく、生息状況が不安定である。

ハゼ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

ウキゴリ

Gymnogobius urotaenia

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 全長 10cm 程度。口が大きく、腹鰭は吸盤状。頭部は扁平。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。成魚は河川に生息するが、孵化仔魚は海に下り、幼魚が河川に遡上する。ため池やダム湖では陸封も可能。

＜分布＞ [市内] 長良川と周辺の支流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域と周辺の支流に分布。
[県外] 北海道から九州に分布。

＜特記事項＞ 長良川本流から支流に広く分布するが、それぞれの地点での個体数は多くない。

ハゼ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

コイ

Cyprinus carpio

＜選定理由＞ 環境改変、外来種の影響

＜種の概要＞ 全長 70cm 程度。フナよりも鱗の縁取りが濃く、口ひげがある。大型の淡水魚であり、雑食性で底生生物を捕食する。現在、河川や湖沼で見られるコイは、ほぼ全て大陸原産の養殖ゴイに由来し、日本在来のコイは放流された養殖ゴイとの交雑種以外、ほとんど残っていない。

＜分布＞ [市内] 多くの河川、ため池に分布。
[県内] 放流された養殖ゴイが飛騨・美濃地方に広く分布。
[県外] 本州～九州に分布。

＜特記事項＞ 在来コイについては実質的に絶滅している可能性もあるが、このリストでは分類学的に同種の外来コイと区別せずに評価した。盛んに放流がおこなわれてきたために多くの個体が見られるが、幼魚の数は少なく、繁殖が充分に行われていない可能性がある。

コイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—



撮影：向井貴彦

カワアナゴ

Eleotris oxycephala

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 15cm 程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色の変化が著しく、全体が褐色の時や、背面が明色でそれ以外が暗褐色になることもある。汽水域から淡水域に生息し、エビなどの小動物や巻貝などを食べる。仔魚期は海で生活する。

＜分布＞ [市内] 長良川に分布。
[県内] 木曾三川下流域に分布。
[県外] 西南日本(沖縄を除く)に分布。

＜特記事項＞ 1990年11月2日に岐阜市下奈良の長良川で採集された標本が岐阜県博物館に所蔵されている(GPM-Z13945)。標本ビンに書かれていた採集者のメモによると「エビ籠に入る。昔いて、絶滅したと思っていたら入った。」とのこと。

ハゼ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：—



撮影：向井貴彦

マハゼ

Acanthogobius flavimanus

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 15cm 程度。幼魚は頭部が大きく、第1背鰭に黒点があり、体側の斑紋もやや不明瞭だが、成長とともに頭部の比率が小さくなり、背鰭の黒色斑も消失、体側に並ぶ暗褐色斑が明瞭になる。主に汽水域に生息するが、夏季には淡水域にも多くの個体が遡上する。

＜分布＞ [市内] 過去には長良川に分布したと考えられる。
[県内] 主に揖斐川中・下流域と木曾川の馬飼大堰より下流に分布。
[県外] 北海道から九州に分布。

＜特記事項＞ 文献的には、1990年代半ば以前は夏季に多数の個体が長良川にいたとされるが、写真や標本等は残されていない。揖斐川流域では現在も大垣市まで遡上が見られるため、本来は岐阜市も生息域だったと考えられる。

ハゼ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：向井貴彦(羽島市産)

アシシロハゼ

Acanthogobius lactipes

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 9cm 程度に成長する。マハゼに似るが、鰭条数や縦列鱗数が少ないことで区別できる。河川下流域から汽水域の低塩分な砂質の環境に生息する。

＜分布＞ [市内] 長良川に分布。
[県内] 主に揖斐川下流域と木曾川の馬飼大堰より下流に分布。
[県外] 北海道から九州に分布。

＜特記事項＞ 2008年の河川水辺の国勢調査において、長良大橋付近で採集されている。長良川下流域に広く分布していたと推測されるが、1990年代以前の小型ハゼ類の信頼できる記録が皆無に近いため、実態は不明。少なくとも現在は非常に稀。

ハゼ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—



撮影：向井貴彦(羽島市産)

I-2-7 昆虫類

昆虫類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 3,358 種のうち 0.7%にあたる 25 種を選定した。

カテゴリー区別にみると、絶滅はシルビアシジミの 1 種である。また、絶滅危惧 I 類はベニイトトンボ、アオハダトンボ、アオヤンマの 3 種、絶滅危惧 II 類はホンサナエ、キイロヤマトンボ、カワラバッタ、タガメ、ヒメタイコウチ、ミドリシジミ、ツマグロキチョウ、コクロオバボタルの 8 種、準絶滅危惧はモートンイトトンボ、ナゴヤサナエ、トラフトンボ、マイコアカネ、ウラギンスジヒョウモン、クロゲンゴロウ、ベーツヒラタカミキリ、トラフカミキリの 8 種、情報不足はオグマサナエ、クツワムシ、ゴマフツトガ、エゾスジヨトウ、ヨツボシカミキリの 5 種である。なお、野生絶滅の該当種はない(表 I-2-7 参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3 次メッシュの 1/2 地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧 I 類の種群は、市の北部を中心に 10 メッシュで記録がある。絶滅危惧 II 類の種群は、市の中東部を中心に 16 メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、市の北部を中心に 9 メッシュで記録がある。情報不足の種群は、市の東部の 1 メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図 I-2-8 に示すとおりである。

表 I-2-7 昆虫類選定種一覧

カテゴリー区分	昆虫類	種数
絶滅	シルビアシジミ	1
野生絶滅	—	—
絶滅危惧 I 類	ベニイトトンボ、アオハダトンボ、アオヤンマ	3
絶滅危惧 II 類	ホンサナエ、キイロヤマトンボ、カワラバッタ、タガメ、ヒメタイコウチ、ミドリシジミ、ツマグロキチョウ、コクロオバボタル	8
準絶滅危惧	モートンイトトンボ、ナゴヤサナエ、トラフトンボ、マイコアカネ、ウラギンスジヒョウモン、クロゲンゴロウ、ベーツヒラタカミキリ、トラフカミキリ	8
情報不足	オグマサナエ、クツワムシ、ゴマフツトガ、エゾスジヨトウ、ヨツボシカミキリ	5
合 計		25

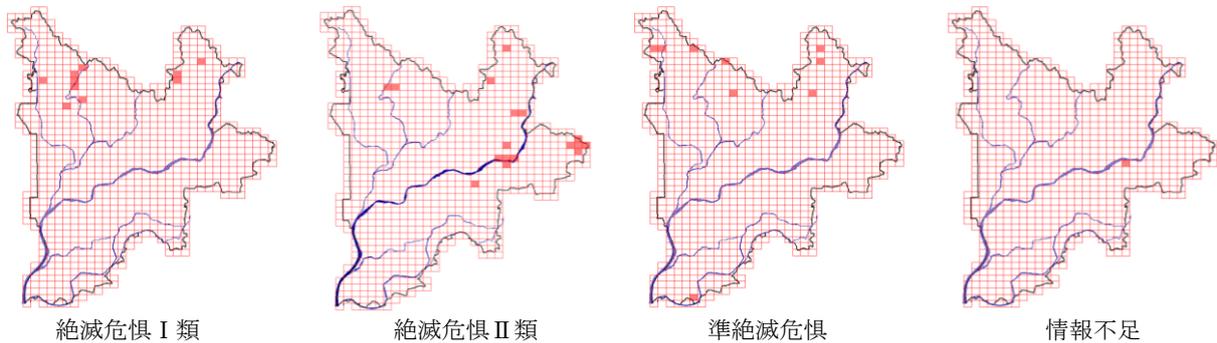


図 I-2-7 カテゴリー別分布状況(昆虫類)

シルビアシジミ

Zizina emelina emelina

シジミチョウ科

岐阜市：絶滅
岐阜県：絶滅
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさが25mm前後のチョウ。翅の表面は雄が青藍色で、外縁に黒帯がある。雌は暗褐色で前翅に青藍色が現れる。裏面は雌雄とも灰褐色で黒点がある。

＜分布＞ [市内] 雄総、黒野、金華山で記録がある。
[県内] 大垣市、羽島市に記録がある。
[県外] 本州(栃木県以西)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 岐阜県では、岐阜市のほか大垣市、羽島市から記録されているが、いずれの地とも絶滅した。



撮影：名和秀雄

ベニイトトンボ

Ceriagrion nipponicum

イトトンボ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅の長さが20mm前後、腹部の長さが28mm前後のトンボ。体は雄があざやかな紅色で、雌は赤褐色である。抽水植物や沈水植物、浮葉植物が繁茂し、木陰のある池沼に生息している。成虫は5～10月にかけて発生するが、7～9月に多く見られる。

＜分布＞ [市内] 達目洞、折立、黒野ばんが池で記録がある。
[県内] 羽島市、笠松町に分布。
[県外] 本州(関東平野以西)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 生息地はヨシやガマなどの抽水植物が繁茂している池沼などの水湿地。こうした湿地は埋め立てなどにより生息環境が悪化し、個体数が激減。本県では30年以上記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外産)

アオハダトンボ

Calopteryx japonica

カワトンボ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長55～60mm前後のトンボ。翅は黒褐色。体は強い金属光沢のある緑色。平地や丘陵地の小河川が生息地。成虫は5～7月に発生するが6月に多い。雄は水際の植物のあるところを縄張りしている。交尾後、雌は植物につかまり、水中に潜って産卵する。

＜分布＞ [市内] 則松、石谷、北野西山、太郎丸向良で記録がある。
[県内] 大垣市、関市、美濃市、本巣市、揖斐川町、中津川市、恵那市、御嵩町に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

＜特記事項＞ 生息地は丘陵地～低山地にある沈水植物などの水生植物が繁茂する緩やかな流れの河川。近年、激減しているトンボの1種である。



撮影：中島和典

アオヤンマ

Aeschnophlebia longistigma

ヤンマ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅の長さは46mm前後、腹長が54mmのトンボ。腹部は太く、鮮やかな黄緑色で、顔の額の後ろにはT字型の斑紋がある。成虫は4月上旬～7月中旬に発生し、池沼周辺の樹林や草地で生息。幼虫は抽水植物の茎や水底の沈積物などにつかまって生活している。

＜分布＞ [市内] 黒野今川、黒野ばんが池、長良で記録がある。
[県内] 各務原市、瑞穂市、羽島市、海津市、笠松町、養老町などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ かつて岐阜県南部に生息していたが近年生息地の環境が悪化し、ほとんど見ることが出来なくなった。市内では30年以上記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外産)

ホンサナエ

Gomphus postocularis

サナエトンボ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 体長 50 mm前後のトンボ。体は黒色で黄色い模様がある。平地や丘陵地の水域に生息。成虫は 4～6 月に発生。幼虫は淵やよどみの水生植物の根元や泥に潜って生活している。卵から成虫になるまで 2～3 年かかる。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 太郎丸向良で記録がある。
[県内] 多治見市、本巣市、美濃市、恵那市、可児市、土岐市などに分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

＜特記事項＞ 近年、県内各地で局所的に多数の個体が確認されているが、市内では未確認。



撮影：渡辺千洋(市外産)

キイロヤマトンボ

Macromia daimoji

エゾトンボ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 翅の長さは 50mm 前後、腹長が 56mm 前後のトンボ。体は黒色で、翅は黄色を帯びている。5 月下旬～8 月に発生するが、特に 6 月に多い。丘陵地の砂泥底の緩やかな流れの河川で発生し、雄は流れに沿って川面を飛翔する習性がある。

＜分布＞ [市内] 日野で記録がある。
[県内] 美濃加茂市、瑞浪市、中津川市、御嵩町などに分布。
[県外] 本州(福島県以南)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では 30 年以上前に日野で記録があるのみ。



撮影：渡辺千洋(市外産)

カワラバッタ

Eusphingonotus japonicus

バッタ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 雄は 25～30mm で雌が 40～43mm のバッタ。体色は灰色で、生息している河原の石と似ているので保護色となっている。前翅は長く、2本の暗色横帯がある。後翅は中央部に弧をえがく褐色の帯状紋があり、内部は鮮やかな青色をしている。翅を後腿節とすり合わせ「カシャカシャ」と音を出す。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 長良古津で記録がある。
[県内] 笠松町、垂井町、揖斐川町(旧徳山村)などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では 30 年以上前の記録があるだけであったが、2009 年に長良古津で再発見された。



撮影：中島和典

タガメ

Lethocerus deyrolli

コオイムシ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長 45～65 mm前後の大型水生昆虫。体は褐色で、前足は太く先には鋭い爪がある。低地～丘陵地にある水生植物が繁茂した池沼、水田、用水路などが主な生息地。成虫で越冬し、6 月頃から水面から出た植物の茎に産卵。卵は雄によって守られる。

＜分布＞ [市内] 大洞、日野、溝口下、山県北野で記録がある。
[県内] 各務原市、恵那市、関市、可児市、多治見市、山形市、坂祝町などに分布。
[県外] 日本全国に分布。

＜特記事項＞ 最近県内各地で増えつつあり、市内でもその傾向が見られる。



撮影：野平照雄(市外撮影)

ヒメタイコウチ

Nepa hoffmanni

タイコウチ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長 20 mm前後で、体が黒褐色の水生昆虫。主な生息地は湿地であるが、湧水近くのコケの間や、水深の浅い水路の落葉の中でも見られる。成虫で越冬し、4～6月に水際近くの土やコケの上に産卵し、孵化した幼虫は秋に成虫になる。

＜分布＞ [市内] 大洞、安食で記録がある。
[県内] 各務原市、可児市、多治見市、土岐市、恵那市、中津川市など県南に広く分布。
[県外] 岐阜県のほか静岡県、愛知県、三重県、兵庫県、香川県に分布。

＜特記事項＞ 県内各地の湿地環境が悪化し、個体数が激減している。市内でもその傾向が見られる。



撮影：岐阜市自然環境課

ミドリシジミ

Neozephyrus japonicus

シジミチョウ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさが35mm前後のチョウ。成虫は6～7月に発生。ハンノキに群れをなして生息し、夕方になると活発に活動する。産卵は普通ハンノキの小枝に1～2個。太い幹では10個以上産むこともある。そのまま卵で越冬。

＜分布＞ [市内] 長良古津、大洞、北野、佐野、太郎丸、志段見、雛倉など市内各地で記録がある。
[県内] 県内各地に広く分布。
[県外] 日本全国に分布。

＜特記事項＞ 市内の生息地はいずれも湿地環境が悪化し、幼虫の食樹であるハンノキが少なくなり、生息数は著しく減少している。



撮影：中島和典

ツマグロキチョウ

Eurema laeta betheseba

シロチョウ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさが35mm前後のチョウ。翅の色は黄色。前翅の縁には帯状の黒色斑紋がある。成虫は5月から活動し、年3～4回発生を繰り返しながら11月頃まで見られる。成虫で冬を越し、翌年産卵する。

＜分布＞ [市内] 岩佐、佐野、彦坂、三田洞、三輪、山県北野で記録がある。
[県内] 県内各地に分布。生息地は局所的。
[県外] 本州(宮城県以西)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 近年、県内各地で増えているようである。市内では各地に生息しているが、いずれも局所的であり、増加傾向は見られない。



撮影：西田真也(市外産)

コクロオバボタル

Lucidina okadai

ホタル科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧ⅠB類

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 体長7mm前後のホタル。体は黒褐色。前胸背には橙色の斑紋がある。湿地および休耕田などの周辺に生息。成虫は6～7月に発生。幼虫は地上でミミズを捕食している。ホタル科の昆虫であるが成虫は発光しない。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 達目洞、大洞で記録がある。
[県内] 可児市、高山市(旧高根村)、関市、山県市などに分布。
[県外] 岐阜県のほか三重県に分布。

＜特記事項＞ 分布は局所的ではあるが、達目洞では毎年見ることができる。



撮影：野平照雄

モートンイトトンボ

Mortonagrion selenion

イトトンボ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅の長さが15mm前後、腹長は17～24mmのトンボ。オスは体の前半が黄緑の地に黒紋、後半は橙赤色である。メスは、羽化直後は橙色であるが、成熟すると緑色になる。低い抽水植物の間などで活動しているが、あまり目立たない。

＜分布＞[市内] 達目洞、山県北野、古津で記録がある。
[県内] 県内各地に分布。
[県外] 日本全国に分布。

＜特記事項＞ 市内の生息地は開発などで悪化し、個体数は減少している。



撮影：大塚英樹

ナゴヤサナエ

Stylurus nagoyanus

サナエトンボ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、特異生態

＜種の概要＞ 翅の長さが35mm前後、腹長は42mm前後のトンボ。体は黒色で黄色の条がたくさんある。成虫は6月下旬～8月頃に発生する。羽化後は河川敷や周辺の樹林へ移動し、成熟すると河川へ戻り繁殖活動を行う。日本固有種。

＜分布＞[市内] 長森岩戸、金園町、柳津下左波で記録がある。
[県内] 大垣市、羽島市、関市、海津市、安八町などに分布。
[県外] 日本全国(東北南部から九州の一部)に分布。

＜特記事項＞ 市内では数例記録があるにすぎない。



撮影：渡辺千洋(市外産)

トラフトンボ

Epiptera marginata

エゾトンボ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅の長さが33～38mmで腹長が33～39mmのトンボ。体は黒と橙褐色の模様。成虫は4月後半頃から羽化し、成熟成虫は5月を中心に見られる。独特の産卵様式を持ち、卵塊を形成してから水面に落とし、さらにその卵塊はひも状となる。成熟したメスは水面上を徘徊飛翔する習性がある。

＜分布＞[市内] 折立、柳戸、長良、黒野、日野で記録がある。
[県内] 大垣市、美濃市、羽島市、岐阜市、海津市、中津川市、可児市など県南部に分布。
[県外] 本州北東部から九州南部にかけて分布。

＜特記事項＞ かつて市内にも分布していたが、1980年代以降は確認記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外産)

マイコアカネ

Sympetrum kunkeli

トンボ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 翅の長さが25mm前後、腹長は24mm前後のトンボ。体は橙色。顔面は黄白色で2つの黒い眉斑がある。成虫は6月下旬～11月に発生する。羽化直後の若い個体は羽化水域周辺の林縁や草の茂みなどで生活して夏を過ごす。

＜分布＞[市内] 大洞、折立、黒野、長良で記録がある。
[県内] 海津市、笠松町、関市、美濃加茂市、各務原市、中津川市など美濃地方に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では1980年以降の確認記録はない。



撮影：渡辺千洋(市外産)

ウラギンスジヒョウモン

Argyronome laodice japonica

タテハチョウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさは55mm前後のチョウ。翅は橙褐色で黒い斑紋が点在している。後翅の裏面には濃い褐色紋と銀白色の列状の斑紋がある。成虫は6月下旬頃から発生し、夏になると活動を休止(夏眠)して、秋になると再び活動を始める。幼虫で越冬する。

＜分布＞ [市内] 網代、達目洞、山県北野、日野、本郷で記録がある。
[県内] 飛騨市、高山市、下呂市、郡上市、中津川市、大垣市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。生息地は減少傾向にある。

＜特記事項＞ かつて市内にも広く分布していたが、1982年以降の確認記録はない。



撮影：豊島健太郎(市外産)

クロゲンゴロウ

Cybister brevis

ゲンゴロウ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長20～25mm前後のゲンゴロウ。背面は光沢のある緑色～褐色。水生植物の豊富な池沼、湿地、放棄水田が主な生息地。成虫は8～9月に発生し、そのまま越冬。翌年産卵。幼虫は水生昆虫を捕食して生活し、大きくなると上陸して土中で蛹になる。

＜分布＞ [市内] 山県岩、山県北野、佐野、奥、岩友で記録がある。
[県内] 土岐市、中津川市、郡上市などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 市内では局所的に分布し、個体数も少ない。



撮影：寺町茂

ベーツヒラタカミキリ

Eurypoda batesi

カミキリムシ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 体長20～40mmのカミキリムシ。上翅は光沢のある茶褐色で、点刻は少ない。昼間はシイなどの大きな照葉樹の腐朽部に潜み、夜間活動する。灯火にも飛来する。本種は暖地にあるカシやシイなどの照葉樹林に生息しているが、大径木のある林に多い。

＜分布＞ [市内] 金華山で記録がある。
[県内] 岐阜市にのみ分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 県内では岐阜市の金華山で確認記録があるのみ。



撮影：野平照雄(市外産)

トラフカミキリ

Xylotrechus chinensis kurosawai

カミキリムシ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特殊環境、環境改変

＜種の概要＞ 体長17～26mmのカミキリムシ。体は黄色と黒の縞模様で、スズメバチによく似ている。触角は短く、脚が長い。成虫は7～8月に発生。幼虫はクワの材内を食べて成長。幼虫の加害によってクワが枯死することもあるので害虫として知られている。

＜分布＞ [市内] 柳津町佐波で記録がある。
[県内] 高山市、中津川市、下呂市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ かつて県内各地に広く分布していたが、近年激減。市内では柳津町佐波で確認記録があるのみ。



撮影：中島和典

オグマサナエ

Trigomphus ogumai

サナエトンボ科

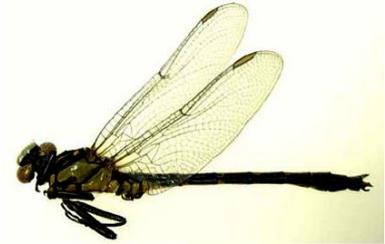
岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅の長さが27～30mm、腹長は33～36mmのトンボ。胸の側面に黒い筋が1本あることと、前肩条という黄色い筋がはっきりしているのが特徴。平地から丘陵地にかけての古い溜池や浅い池沼や水田など、止水域に生息する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 折立、日野、長良川金華橋付近で記録がある。
[県内] 中津川市、恵那市、瑞浪市、可児市、海津市、関ヶ原町など県内各地に分布。
[県外] 本州(長野・岐阜・愛知県以西)、四国(徳島県)、九州に分布。

＜特記事項＞ かつて県内各地に分布していたが、近年激減。市内では1970年以前に確認記録があるのみ。



撮影：渡辺千洋(市外産)

クツムシ

Mecopoda niponensis

クツムシ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 体長が30～35mm、翅端までは50mm内外のキリギリスの仲間。体は緑色と褐色のタイプがあり、緑色でも雄の背面にある発音器付近は褐色を帯びている。翅は大きく幅広い。夜になると雄は「ガチャガチャ」と大きな声で鳴く。成虫は7月下旬より発生し、11月上旬まで活動する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 日野、達目洞で記録がある。
[県内] 関市、可児市などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 確認記録が少なく、詳しいことはよくわかっていない。



撮影：中島和典

ゴマフツトガ

Chilo pulveratus

ツトガ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさが19mm前後の小さな蛾。前翅は明るい藁色で、暗灰色鱗を散布し、後翅は白い。前翅頂が鋭くとがる。成虫は年1回、6～7月に発生する。河跡湖が残る河川敷や、低山地のヨシやススキなどの自生する明るい湿地に見られる。

＜分布＞ [市内] 山県北野で記録がある。
[県内] 多治見市、笠松町などに分布。
[県外] 本州、四国、沖縄本島に局地的に分布。

＜特記事項＞ 確認記録が少なく、詳しいことはよくわかっていない。



撮影：宮野昭彦(市外産)

エズスジヨトウ

Doerriesa striata

ヤガ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 翅を広げた大きさが23～30mmの小さな蛾。前翅は藁色で白色の筋が入る。後翅は白色。丘陵地や山地の湿地や草原に生息するが、発生は局地的で、食草や生活史など詳しいことはわかっていない。成虫は6～8月に発生する。

＜分布＞ [市内] 山県北野で記録がある。
[県内] 土岐市、瑞浪市、関市、美濃市などに分布。
[県外] 北海道、本州(中部・北部)に分布。

＜特記事項＞ 市内での確認記録は1事例のみである。



撮影：船越進太郎(市外産)

ヨツボシカミキリ

Stenygrinum quadrinotatum

カミキリムシ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：絶滅危惧ⅠB類

レッドリスト

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長8～14mmの小さなカミキリムシ。体は赤褐色で、上翅中央部に2対の白紋がある。主な生息地はコナラ、クリ、ミズナラなどの広葉樹が混成した雑木林。成虫は5～8月に発生し、ノリウツギ、リョウブなどの花に集まる。灯火にも飛来する

＜分布＞ [市内] 長良古津、金華山、百々ヶ峰で記録がある。
[県内] 高山市、下呂市、中津川市、土岐市、美濃市、白川村、揖斐川町、八百津町、七宗町などに分布。
[県外] 本州、四国、九州、沖縄に分布。

＜特記事項＞ かつては県内各地に多数生息していたが、近年激減し、ほとんど見ることが出来なくなった。市内では1978年以降確認記録がない。



撮影：野平照雄(市外産)

昆虫類

I-2-8 貝類

貝類のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある 101 種のうち 41.6%にあたる 42 種を選定した。

カテゴリー区分別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はナタネキバサナギガイ、イボイボナメクジ、クチベニマイマイ、ミノマイマイ(クロイワマイマイ亜種)、タガイ、オバエボシガイ、カタハガイ、イシガイの 8 種、絶滅危惧Ⅱ類はヒメマルマメタニシ、クロダカワニナ、ナミギセル、ミジンナタネガイ、レンズガイ、ヤマタカマイマイ、ヌマガイ、マツカサガイ、トンガリササノハガイの 9 種、準絶滅危惧はキュウシュウゴマガイ、マルタニシ、オオタニシ、ニホンケシガイ、ヒラマキミズマイマイなど 16 種、情報不足はコシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヒメオカモノアラガイ、キセルモドキ、ヒラベッコウ、ビロウドマイマイ属の一種、カワシンジュガイ、カラスガイ、マシジミの 9 種である。なお、絶滅、野生絶滅の該当種はない(表 I-2-8 参照)。

表 I-2-8 貝類選定種一覧

カテゴリー区分	貝類	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	ナタネキバサナギガイ、イボイボナメクジ、クチベニマイマイ、ミノマイマイ(クロイワマイマイ亜種)、タガイ、オバエボシガイ、カタハガイ、イシガイ	8
絶滅危惧Ⅱ類	ヒメマルマメタニシ、クロダカワニナ、ナミギセル、ミジンナタネガイ、レンズガイ、ヤマタカマイマイ、ヌマガイ、マツカサガイ、トンガリササノハガイ	9
準絶滅危惧	キュウシュウゴマガイ、マルタニシ、オオタニシ、ニホンケシガイ、ヒラマキミズマイマイ、ナガオカモノアラガイ、ヤマナメクジ、ヒゼンキビ、ウメムラシタラ、タカキビ、ヒメカサキビ、ケハダビロウドマイマイ、コベツマイマイ、コオオベツマイマイ、オトメマイマイ、ヒルゲンドルフマイマイ	16
情報不足	コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヒメオカモノアラガイ、キセルモドキ、ヒラベッコウ、ビロウドマイマイ属の一種、カワシンジュガイ、カラスガイ、マシジミ	9
合 計		42

一方、環境省レッドリストに記載されているタテヒダカワニナ、イボカワニナ、カゴメカワニナ、ヒメヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、オオウエキビ、ヤマトシジミの 7 種については、以下の理由により岐阜市版レッドリストには取り上げなかった。

タテヒダカワニナ、イボカワニナ、カゴメカワニナ、ヤマトシジミは、人為的に放流された移入種であり、ヒメヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、オオウエキビは岐阜市内では生息地も生息個体数も多いことから除外した。

なお、環境省レッドリストには記載されていないが、同定が困難で微小種であることから各地の情報量が極めて少ないウエジマメシジミについては、岐阜市内では生息地も生息個体数も多いことから除外した。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3次メッシュの1/2地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧Ⅰ類の種群は、市の北部から西部を中心に44メッシュで記録がある。絶滅危惧Ⅱ類の種群は、市の北部から西部を中心とし南部にも点々と92メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、市の南部の一部を除き広い範囲で分布し184メッシュで記録がある。情報不足の種群は、市の西部および東部を中心に111メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図I-2-8に示すとおりである。

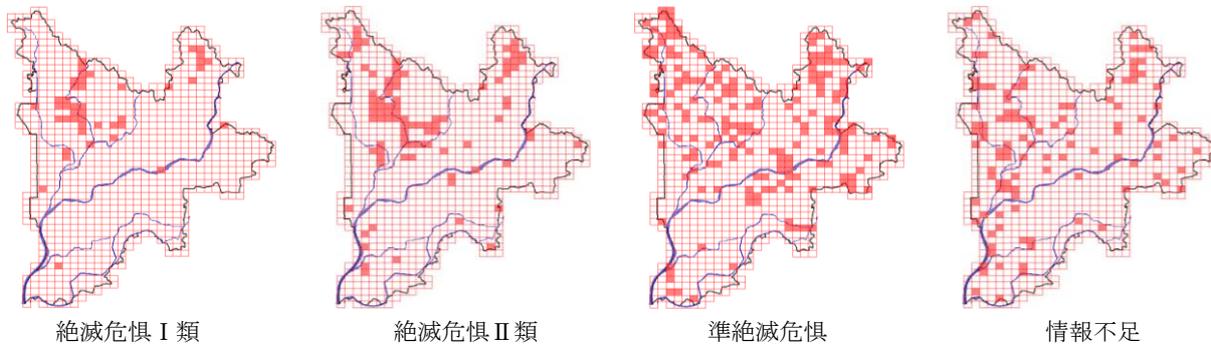


図 I-2-8 カテゴリー別分布状況(貝類)

ナタネキバサナギガイ

Vertigo eogia eogia

キバサナギガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：—

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、特殊環境

＜種の概要＞ 殻は微小で殻高3mm程度、殻径2mm程度、褐色または赤みがかった淡褐色で平滑な蛹形の巻貝。螺頂は円く、体層は次体層の1.5倍程度。縫合は深く、各螺層はよく膨らむ。殻口は半円形で殻内に歯が出る。臍孔は広く開いている。本種は湿地性種であるため、湿地または水田周辺など湿地に準ずる環境に生息する。市内では湿地状の休耕田などに生息していたが、生息地点数・生息個体数ともに非常に少ない。

＜分布＞ [市内] 芥見、岩野田、常磐で記録がある。
[県内] 不詳。
[県外] 千島列島以南、北海道、本州、四国に分布。

＜特記事項＞ 本種の生息環境である湿地や湿地に準ずる環境は減少しており、これが減少要因の一つと考えられる。



撮影：川瀬基弘(市外産)

イボイボナメクジ

Granulilimax fuscicornis

ホソアシヒダナメクジ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：情報不足

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、特異生態

＜種の概要＞ 体長25mm程度。本種は他のナメクジを含む陸産貝類と異なり、粘液を持たないのが特徴であるため、匍匐後に粘液が残らない。肉食性であり他の陸貝を捕食する。休止時は触角を引き込み昆虫の幼虫のようにも見えるが、匍匐時は触角を伸ばし体も細長く伸びる。背面の中央には不明瞭な太い縦線があり、それを囲むように細い明瞭な環状の線が模様としてみられる。普通のナメクジとは別系統である。市内では滅多に見つからない。

＜分布＞ [市内] 岩野田北、常磐で記録がある。
[県内] 養老町、大垣市などに分布。
[県外] 和歌山、静岡、愛知、三重、山梨の各県、四国に分布。



撮影：川瀬基弘

クチベニマイマイ

Euhadra amaliae

オナジマイマイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は中形で、殻高20～24mm、殻径26～37mm。淡い黄白色で光沢があり、やや薄い。螺塔は低い円錐形。色帯は0234型、0034型、0204型、0000型、0030型、0004型、(1～3)0型など多くの型がある。周縁は円く、殻口は下降して斜位、ほぼ円形。唇縁は肥厚して広がる。外唇は淡紅色、内部は紫紅色。臍孔は中位の大きさで開く。軟体の背部は白色で、両肩部は黒い縦条である。その上縁は顕著、下縁は次第に消失する。

＜分布＞ [市内] 真砂町4丁目(1984/7/30)で記録がある。
[県内] 大野町、恵那市、本巣市(旧根尾村)、白川町、瑞浪市、郡上市(旧白鳥町)などに分布。
[県外] 本州中部以西、近畿地方、伊豆三宅島に分布。

＜特記事項＞ 1984年に市内での確認記録があるが、現在では市内全域で死殻すら見つからないことから絶滅した可能性もある。



撮影：川瀬基弘(市外産)

ミノマイマイ(クロイワマイマイ亜種)

Euhadra senckenbergiana minoensis

オナジマイマイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は小形で、殻高24.5mm、殻径36mm。黄褐色～濃い赤褐色で無光沢に近い。色帯はほとんど0204型で、2は細く4は臍孔域よりかなりひろがる個体もある。特に体層は膨らみが強い。螺旋状の成長線は密に現れ、火炎彩は少し見られる。殻口は広くほとんど円形で、その外唇はやや厚く広く反転する。臍孔は著しく小さく、急に狭くなる。軟体は背面が淡い虎模様である。

＜分布＞ [市内] 下尻毛(1984/7/10)、北柿ヶ瀬(1984/7/9)で記録がある。
[県内] 揖斐川町、恵那市、大垣市、美濃市、美濃加茂市などに分布。
[県外] 岐阜県のほか滋賀県、三重県(中部以北)に分布。

＜特記事項＞ 1984年に市内での確認記録があるが、現在では市内全域で死殻すら見つからないことから絶滅した可能性もある。



撮影：西尾和久(市外撮影)

タガイ

Anodonta japonica

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特異生態、環境改変、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 殻が長卵形で薄く、膨らみが弱く、中型で通常の殻長は10cmを超えない。殻頂は前方に寄り、殻頂付近には同心円状の皺がある。擬主歯も後側歯もない。殻表は黒褐色で、内面はやや青みがかった真珠光沢をもつ。妊卵期は一年中で、幼生も一年中放出される。間隔を開けて約一ヶ月間に渡って幼生を放出する雌もいれば、数日で全ての幼生を放出する雌もいる。宿主はオイカワ、カマツカ、ヨシノボリで、幼生は鰭や鰓に寄生する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 合渡、黒野、三輪北、七郷、常磐、方県、木田などで記録がある。
[県内] 海津市(旧海津町油島)、揖斐川町北方、笠松町米野木曾川などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 生息環境の改修工事や汚染が進み、幼生の宿主となる魚類が外来魚に捕食されるなどの理由で、本種の生息地や個体数は激減した。



撮影：市原俊

オバエボシガイ

Inversidens brandti

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 分布限界、希少、特異生態、環境改変、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 殻は卵円形で膨らみ、後端は嘴状にやや尖る。日本産イシガイ科貝類としては最も小型種で殻長は通常5cmを超えない。殻頂付近には弱い縮緬状の彫刻がある。収足筋痕は前閉殻筋痕とつながる。鰓葉に蓄えられた卵はグロキディウム幼生に成長した後放出され、グロキディウム幼生はオイカワ、ヒガイ、タモロコ、モツゴの魚類の体表に付着し寄生生活を経て底生生活に入る。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 岩野田、黒野、常磐、方県で記録がある。
[県内] 揖斐川町、関市などに分布。
[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、九州に分布。

＜特記事項＞ 伊勢湾流入河川以西に分布し、岐阜県は分布の東限にあたる。



撮影：市原俊

貝類

カタハガイ

Obovalis omiensis

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 分布限界、希少、特異生態、環境改変、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 日本産イシガイ科二枚貝としては中型で殻長は通常8cmを超えない。左右両殻ともやや強い三角形の1主歯を持つが後側歯はない。この特徴が片歯(かたは)という和名の由来である。殻表は平滑で、後背縁に放射状肋がある。内面は青味を帯びた真珠光沢をもつ。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。宿主はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリで、主に鰓に付着寄生する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 黒野、三輪北、常磐、西郷、方県、網代で記録がある。
[県内] 関市、揖斐川町に分布。
[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 三河湾以西の本州から九州に分布し、岐阜県は分布の東限にあたる。



撮影：市原俊

イシガイ

Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特異生態、環境改変、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 殻は細長く5cm程度に成長する。黒い殻色をもつ。日本全国に広く分布し、河川の中流・下流や水路、湖沼に生息する。タナゴ類の産卵対象となる。用水路の三面張りや生活排水、農薬の流入などで生息環境の悪化が進んでおり、日本各地で生息場所や生息個体数は減少している。市内では、長良川以北の水路や稀に小河川に生息していたが、個体数は各地点ともに非常に少なかった。近江盆地には亜種のタテボシガイが分布する。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 黒野、鷺山、三輪北、長良東、日置江、日野、柳津などで記録がある。
[県内] 瑞浪市、関市、羽島市、坂祝町、笠松町などに分布。
[県外] 近江盆地を除く日本全国に分布。

＜特記事項＞ 宿主はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリで、幼生は鰓に付着寄生する。



撮影：市原俊

ヒメマルマメタニシ

Gabbia kiusiuensis

エゾマメタニシ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：情報不足

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 分布限界、希少、環境改変

＜種の概要＞ 殻高 6～7mm 程度の小型種。殻は長卵形で、螺塔の高さや縫合の深さには多少の変異がある。各層は平滑で光沢がありよく膨れる。蓋は石灰質で厚い。もともと生息地が局限される稀少な種で、生態に関する知見は極めて少ない。兵庫県以西の本州、四国、九州に分布し、岐阜県は本種の分布の東限にあるとされている。

＜分布＞ [市内] 合渡、黒野、七郷、木田で記録がある。
[県内] 大垣市、養老町などに分布。
[県外] 岡山県、埼玉県、兵庫県、山口県、四国、九州全県に分布。



撮影：川瀬基弘

クロダカワニナ

Semisulcospira (Biwamelania) kurodai

カワニナ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：準絶滅危惧

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 外形は棍棒状でカワニナやチリメンカワニナに比べて細高く、殻底肋が 5～6 本と少ない。殻高は 30～35mm 程度。胎児殻の体層には瘤状突起がある。蓋は革質の卵形。雌雄異体の卵胎生で育児嚢をもつ。流れが極めて緩やかな河川下流域や水路、溜池に生息する。泥が堆積している場所を好む。カワニナと同属であるが、遺伝子分析の結果は琵琶湖固有種のタテヒダカワニナなどと近縁であり分類学的な再検討が必要であろう。

＜分布＞ [市内] 黒野、鷺山、常磐、長森南、長良、長良西、方県などで記録がある。
[県内] 関市、川辺町、笠松町、羽島市、海津市などに分布。
[県外] 東海地方以西、近畿地方、紀伊半島、中国地方に分布。

＜特記事項＞ DNA 分析の結果、琵琶湖固有種のタテヒダカワニナと近縁であったため亜属名には *Biwamelania* を用いた。



撮影：市原俊

ナミギセル

Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica

キセルガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 殻は中形で、殻高 26mm、殻径 7mm、12 層。やや棍棒型で淡黄～紫褐色。殻口は卵形で全縁、白色。外唇は厚くひろがり反転する。上板は斜位で内唇にいたる。下板は顕著に発達し、弓状に湾曲し、上板に近づいている。下軸板は弱く唇縁に現れる。主壁は長く、その下に上腔襞が少し斜めにあり、それより短い下腔襞がある。地域による個体変異があり多くの地方名が与えられている。

＜分布＞ [市内] 方県、網代で記録がある。
[県内] 大垣市、大野町、揖斐川町(旧久瀬村、旧徳山村)、山口市(旧美山町)、本巣市(旧根尾村)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ ナミギセルが好む生息環境である落葉樹林の減少が、本種の生息地や個体数の減少要因と考えられる。



撮影：川瀬基弘

ミジンタタネガイ

Punctum atomus

ナタネガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：—

環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は極めて薄く微小で、殻高 0.5mm、殻径は 1mm 程度、3 層。中位の臍孔、蒼黄色、光沢があり鋭い密縦脈と細螺脈をもつ。螺層はよく膨れ、縫合は深く、体層周縁と底面は円い。殻口は円く新月形で唇縁は薄く、軸唇は広くひろがる。極めて微小な種であるため、リター分析を行わないと見逃されることがある。市内の調査では全域のリター分析を行ったが、発見されたのは 1 地点のみであり、生息数が極めて少ない。

＜分布＞ [市内] 芥見で記録がある。
[県内] 不詳。
[県外] 北海道、松島、三宅島(伊豆)、西郷(模式産地)に分布。



撮影：市原俊

レンズガイ

Otiosiopsis japonica

ベッコウマイマイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：情報不足
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は薄く、殻高7～9mm、殻径13mm前後。半透明で淡い黄褐色。凸レンズ形で、周縁はキール状になる。螺塔は低い円錐形で、螺頂は鈍い。成長線は不規則に現れる。殻底は膨れ、中央の軸部はくぼむ。殻口は斜位。唇は薄く、底唇は湾曲し、上方の周縁角付近は広がり反転して溝状となる。狭い臍孔がある。軟体は淡いアメ色。両肩部は太く漆様黒帯縦条が現れる。足部側面の中ほどから後方にわたり黒い小さな斑紋が若干散在する。

＜分布＞ [市内] 芥見、金華、日野で記録がある。
[県内] 美濃市、揖斐川町に分布。
[県外] 関東地方、静岡県、島根県、九州全域に分布。

＜特記事項＞ 九州では連続的に分布するが、本州の記録は不連続で局限され、生物地理学的に興味深い種であることが指摘されている。



撮影：川瀬基弘

ヤマタカマイマイ

Satsuma papillifoemis

ニッポンマイマイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻高30mm、殻径25mm程度になる卵形の陸産巻貝である。色は淡黄褐色で周囲に細い淡い茶褐色の線があることが多い。希に無帯のこともある。殻口の底唇と軸唇とは直角になる。臍孔は閉じる。殻口外唇は広がって乳白色になる。軟体は淡い茶褐色で、顆粒状模様を現している。自然度の高い林内や川沿いの朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。

＜分布＞ [市内] 方県、網代で記録がある。
[県内] 本巢市、山県市、郡上市、白川村、高山市、飛騨市などに分布。
[県外] 長野・富山県以西、福井、島根、近畿地方一円に分布。



撮影：川瀬基弘(市外産)

貝類

ヌマガイ

Anodonta lauta

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少、特異生態、環境変化、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 殻は薄く卵形で膨らみ、大型個体の殻長は20cmを超える。擬主歯はない。殻表は黒色～緑褐色で、細かい成長線を除き、ほぼ平滑であるが殻頂付近には同心円状の皺がある。後端はやや尖る。内面は真珠層に覆われる。溜池や用水路の砂～泥底に生息する。幼生はグロキディウムと呼ばれ、オイカワ、カマツカ、ヨシノボリの鱗や鰓に付着寄生する。妊卵期は春から夏で、幼生もその間に放出される。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 岩野田、鏡島、厚見、鷺山、常磐、則武、柳津、鶉などで記録がある。
[県内] 海津市(旧海津町、旧南濃町)、羽島市正木町、瑞浪市、恵那市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。



撮影：市原俊

マツカサガイ

Inversidens (Pronodularia) japonensis

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少、特異生態、環境変化、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は通常9cmを超えない。殻は卵円形で、膨らみは弱く平たい。湖沼産の個体は大型になることがある。殻のほぼ全面に強いさざ波状の彫刻がある。右殻の擬主歯は三角状である。内面は真珠層に覆われる。小川や用水路の礫～砂泥底に生息する。25℃で完全に乾燥させても数日間は生きられる。寿命は約10年。妊卵期は晩春から夏にかけてで、幼生は主として日中に流下している。日本固有種。

＜分布＞ [市内] 黒野、三輪南、七郷、長森東、日野、網代、木田などで記録がある。
[県内] 瑞浪市、揖斐川町、関市、下呂市(旧萩原町)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：市原俊

＜特記事項＞ 宿主はオイカワ、カワムツ、ドジョウ、ヨシノボリで、グロキディウム幼生は鱗や鰓に付着寄生する。

トンガリササノハガイ

Lanceolaria grayana

イシガイ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 分布限界、希少、特異生態、環境変化、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 日本産イシガイ科貝類としては大型で殻長は15cmに成長する個体もある。膨らみは弱い。前縁は丸く、後端は鋭く尖る。殻頂は前方に寄る。殻表には不明瞭な皺状の彫刻がある。内面は真珠光沢が強い。ササノハガイは琵琶湖水系特産の異名。宿主はオイカワ、ヨシノボリ、カワムツで、主に鰓に寄生する。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。移動能力は高いが、あまり移動しない。日本固有種。

＜分布＞[市内] 芥見東、鏡島、三輪南、市橋、常磐、方県、藍川などで記録がある。

[県内] 瑞浪市、海津市(旧海津町)、揖斐川町、関市などに分布。

[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 分布は三河湾流入河川以西であり、岐阜県は分布の東限に位置する。



撮影：市原俊

キュウシュウゴマガイ

Diplommatina tanegashimae kyushuensis

ゴマガイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻高2.7mm、殻径1.5mm、7層。肥満した紡錘形で、淡い黄褐色。次体層が最大となる。肋条は細かく弱い。最終層は正面で肋条が消えて、平滑に近い。殻口の内部は肥厚し、腔滑層の縁は厚くなる。殻軸の下端で口縁は弱く角張る。腔襞は長く強く、明瞭である。本種はタネガシマゴマガイの亜種である。

＜分布＞[市内] 常磐、方県、網代で記録がある。

[県内] 不詳。

[県外] 本州中部～九州に分布。

＜特記事項＞ 岐阜県が東限になる可能性もあるが詳細な分布情報がない。



撮影：川瀬基弘

マルタニシ

Cipangopaludina chinensis laeta

タニシ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 環境変化

＜種の概要＞ 殻は円錐形で各螺層の膨らみは強く縫合は深い。殻表面には刻点列状の彫刻がある。殻高は40～50mm程度。近縁種のオオタニシに似ているが、オオタニシよりやや小型で、殻の形が丸みを帯びる。主に、水田・池・沼などの淡水の止水域に生息する。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。胎児殻は小型で、30～40個。6～7月頃に胎児を産出する。比較的乾燥に強い。食用になる。

＜分布＞[市内] 合渡、黒野、七郷、常磐、西郷、網代、木田、藍川などで記録がある。

[県内] 瑞浪市、羽島市、高山市、飛騨市、垂井町、池田町などに分布。

[県外] 北海道～九州、沖縄に分布。

＜特記事項＞ 近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化のため生息地、生息数とも著しく減少した。



撮影：市原俊

オオタニシ

Cipangopaludina japonica

タニシ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 環境変化

＜種の概要＞ 殻は高い円錐形でヒメタニシに似るがより大型で、殻底に比較的明瞭な角があるものが多い。殻高は50～60mm程度で、環境条件がよいと80mm前後まで成長する。殻表は平滑で光沢がある。水田にも見られるが、水の干上がらない池沼や湧水のある場所などに多い。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。胎児殻は小さく、周縁に著しい角のあるそろばん玉状。通常胎児は30～40個程度。食用にされる。

＜分布＞[市内] 芥見、黒野、三輪南、長森南、方県、網代、藍川などで記録がある。

[県内] 瑞浪市、恵那市(旧山岡町、旧岩村町を含む)、大垣市、七宗町などに分布。

[県外] 東北地方以南、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ かつては食用にするほど多産したが、近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修などのため生息地、生息数とも著しく減少した。



撮影：市原俊

ニホンケシガイ

Carychium nipponense

ケシガイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は著しく微小で、殻高 1.3mm、殻径 0.6mm、4 層。螺頂は裁断したように鈍くなる。透明な淡い黄褐色で平滑、光沢がある。体層はやや大きい。縫合はやや深く、殻口は斜位で、細長く小さい。内層の中ほどに尖る板(歯)状があり、外層内方にやや大きい節がある。極めて微小であるため、リター分析により確認された。市内全域のリター分析を行ったが分布が極めて局所的であった。微小種であるため各地の詳細な分布情報は少ない。

＜分布＞ [市内] 芥見、三輪南、長良東で記録がある。
[県内] 高山市(旧吉城郡上宝村、旧大野郡高根村、旧朝日村)、白川村などに分布。
[県外] 奥羽地方以南、関東、近畿、徳島、隠岐島に分布。



撮影：市原俊

ヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinensis

ヒラマキガイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：情報不足

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻径 5mm 程度の扁平な平巻き形。周縁は円いか、わずかにキール状になる。本種はヒメヒラマキミズマイマイに比べて大型で同サイズのそれと比較すると巻き数が少ないことで区別できる。殻表は灰褐色や黄褐色を帯びた半透明で微細な成長脈がある。殻は付着物に覆われていることが多い。遺伝子分析により市内には、本種とヒメヒラマキミズマイマイが生息することを確認したが、本種の分布は後者に比べて極めて局所的であった。

＜分布＞ [市内] 岩、黒野、鷲山、常磐、則武、長良西、島、木田で記録がある。
[県内] 瑞浪市、本巣市(旧根尾村松田)、恵那市(旧明智町)、笠松町、中津川市、笠松町などに分布。
[県外] 北海道以南～九州南西諸島までの日本全国に分布。



撮影：市原俊

＜特記事項＞ 水質汚濁や冬季の乾田化などが減少の原因と考えられる。

ナガオカモノアラガイ

Oxyloma hirasei

オカモノアラガイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻はとても薄く、やや光沢のある黄褐色の半透明。卵形～紡錘形で体層は長い。殻高 10～13mm 程度。殻口が著しく長く広がり殻口高は殻高の 8 割程度を占める。淡水産のモノアラガイなどに似ているが、眼が触角の先端についていることで区別できる。陸産種であるが、水田・水路周辺の草地や水路の水際など淡水産貝類調査の際に比較的良好に見つかることが多い。

＜分布＞ [市内] 茜部、芥見、鷲山、三里、島、日野、本郷、網代などで記録がある。
[県内] 瑞浪市、大垣市、笠松町などに分布。
[県外] 本州(関東・中国)、四国、九州北部に分布。



撮影：川瀬基弘

＜特記事項＞ 本種が付着するマコモなどの挺水植物の生息する湿地や水田が激減しているため、本種の生息地、生息数も減少している。

ヤマナメクジ

Meghimatium fruhstorferi

ナメクジ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 軟体は巨大で、13～16cm に及ぶ個体もある。灰褐～黒褐色で、その両側に幅広く黒縦帯があり、足部近くで淡くなる。背上の中央に黒い斑点が縦にあり、背面から側面にわたり黒～灰色の顆粒状隆起で縞模様を現している。山地性で冬期は老樹の洞穴内深くに潜入して越冬している。

＜分布＞ [市内] 三輪南、三輪北で記録がある。
[県内] 大垣市、郡上市(旧白鳥町)、飛騨市(旧吉城郡神岡町、旧河合村稻越)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州、久米島に分布。



撮影：岐阜市自然環境課

ヒゼンキビ

Parakaliella hizenensis

ベッコウマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻径3mm程度の微小種。殻は薄く半透明で黄褐色～褐色。螺塔はやや高く円みのある円錐形。各螺層はよく膨らみ縫合はやや深い。ハリマキビよりも体層が一回り小さく、ヒメハリマキビよりも丸みをおびることで区別できる。市街地や平地には分布しない山地性種であり、市内では北部の山間部の数地点で生息記録があるが個体数は少ない。

＜分布＞[市内] 岩野田、三輪南、常磐、長良東、方県、網代、藍川で記録がある。

[県内] 養老町（養老山系の北部の石灰岩地帯）、揖斐川町に分布。

[県外] 本州（愛知県・中国地方）、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

ウメムラシタラ

Coneuplecta (Sitalina) japonica

ベッコウマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は微小で、殻高約1.2mm、殻径1.8mm程度。螺塔が低く、巻数は少なく、低い円錐形。縫合はくびれ、各層には段差を有し、3本程度の螺状殻皮を持つ。体層底部は平たく、周縁の角は尖らない。殻は淡黄褐色。殻口は肥厚・反転せず、内部に歯はない。雌雄同体。低標高の比較的自然度の高い森林の落葉下に生息する。コシタカシタラガイと比べると体層の周縁に3本の螺状肋があることで識別できる。

＜分布＞[市内] 芥見、金華、三輪南、三輪北、長良東、日置江、日野などで記録がある。

[県内] 揖斐川町、高山市高根町、揖斐郡大野町、大垣市赤坂町に分布。

[県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘（市外産）

タカキビ

Coneuplecta praealta

ベッコウマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：情報不足

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻高は4mm、殻径2.5mm程度で小型である。殻はきわめて薄く、淡い褐色で半透明である。螺塔は高い円錐形状の形態である。螺層は多く、その頂部は鈍い。体層に周縁角があり、殻底はわずかに膨れる。殻口は半円形、その唇縁は薄い。軸唇は少し広がり三角形となる。臍孔がある。山地の森林内に生息し、薄暗い谷など湿潤な環境下において、アオキなどの常緑低木の葉の裏側に付着していることが多い。

＜分布＞[市内] 岩野田、金華、三輪北、常磐、方県、網代、藍川で記録がある。

[県内] 瑞浪市、下呂市（旧下呂町）、揖斐川町に分布。

[県外] 本州（山口県以東・近畿・中部・関東地方）、九州に分布する。



撮影：市原俊

ヒメカサキビ

Trochochlamys subcrenulata

ベッコウマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は微小で殻高2.2mm、殻径3mm程度。淡い褐色で半透明。カサキビより著しく低い円錐形。螺層は緩やかに膨れる。体層の周縁角は鋭く突起している。殻表は繊細な糸状縦脈と多少不明瞭な螺状脈を現す。殻口はやや菱形、その周縁は薄い。軸唇はやや垂直にわずかに広がる。臍孔は狭く開いている。軟体は淡灰～赤褐色。触角は黒褐色。宅地開発などによる自然林の減少や乾燥化により生息地や個体数は減少していると考えられる。

＜分布＞[市内] 岩野田、京町、常磐、梅林、方県、明德、網代で記録がある。

[県内] 瑞浪市、本巣市（旧本巣郡本巣町）に分布。

[県外] 本州、伊豆諸島、四国、九州及び付属島嶼に分布。



撮影：川瀬基弘

ケハダビロウドマイマイ

Nipponochloritis fragilis

ニッポンマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻はやや小形で、殻高 15～20mm 程度。黄褐色。螺塔は低い。縫合はやや深く、各層はよく膨れる。体層は急に膨大となる。殻表に比較的荒い針毛様の殻皮が発達する。殻口は成熟しても反転しない個体が多い。ビロウドマイマイ（トウカイビロウドマイマイ）に比べて、殻皮毛の密度が低く粗いのが特徴である。山間部の倒木下や伐採して積み上げられた竹材の下などに生息するが、生息地は少なく個体数も少ない。

＜分布＞ [市内] 鷺山、三輪北、方県、網代で記録がある。
[県内] 揖斐川町、大野町など伊吹山周辺地域に分布。
[県外] 北陸以南、近畿地方、中部地方に分布。

＜特記事項＞ 遺伝子分析の結果、市内のケハダビロウドマイマイは、エチゼンビロウドマイマイに近縁であることが分かった。



撮影：川瀬基弘

コベソマイマイ

Satsuma myomphala

ニッポンマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は大形でやや薄く、殻高 30～35mm、殻径 40～50mm。螺塔は低く、淡い黄褐～赤褐色。周縁に赤褐色の色帯がある。縫合は浅い。殻口は斜位でやや広い半円形。外唇は薄くわずかに反転する。臍孔は閉じる。軟体の背面はアメ色。本種は山麓から平地に生息し、国内の分布域では南の方が小型化する傾向があり多産する地域もあるが、東海地域では比較的個体数が少なく希少な種である。

＜分布＞ [市内] 芥見、岩、黒野、長良東、日野、梅林、方県、網代などで記録がある。
[県内] 恵那市（旧明智町）、関市（旧板取村を含む）、養老町、御嵩町、富加町（旧富加村）などに分布。
[県外] 本州（中部以西）、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

貝類

コオオベソマイマイ

Aegista mimula

オナジマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は扁平でうすく、殻高 5～7.5mm、殻径 9～11mm。螺塔は低い円錐形。褐色で光沢がない。殻表には伏したごく鱗片のようなものが弱い線条にそって密生する。体層の周縁は円いが弱く角ばる。殻口は斜位、やや円形。唇縁は白く狭くひろがり、やや反転して厚くなる。臍孔は広く開く。四国（香川県）・本州（秋田県～島根県）と広く分布し、地方変異がある。

＜分布＞ [市内] 岩、三輪南、三輪北、方県、網代で記録がある。
[県内] 高山市（旧朝日村、旧丹生川村）、飛騨市（旧河合村）、多治見市、大野町などに分布。
[県外] 奥羽地方以南～島根県、香川県に分布。



撮影：川瀬基弘

オトメマイマイ

Trishoplita goodwini

オナジマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻は小形で、殻高 6.5～8.3mm、殻径 8.8～11.7mm。薄く、半透明でやや光沢があり、青白色。螺塔は円錐形。殻表には弱い成長線がある。周縁には鈍い角がある。殻口は少し下降して斜位、円形に近い。唇縁は薄く、わずかにひろがる。軸唇は白色、かなりひろがる。臍孔は中ぐらいの大きさ。自然林で溪流ぞいのササ類や竹などが繁茂しているところに、生息している。

＜分布＞ [市内] 金華、三輪南、城西、常磐、長良東、日置江、日野などで記録がある。
[県内] 大垣市、郡上市（旧白鳥町）、本巣市（旧本巣町）、山県市（旧美山町）、揖斐川町（旧谷汲村、旧藤橋村）などに分布。
[県外] 石川・福井県以南、岐阜・三重県以西の近畿地方、四国に分布。



撮影：川瀬基弘

ヒルゲンドルフマイマイ

Trishoplita hilgendorfi

オナジマイマイ科

岐阜市：準絶滅危惧
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：準絶滅危惧

<選定理由> 希少

<種の概要> 殻はやや大きく、殻高 8mm、殻径 12mm 程度の低円錐形で、体層は丸く膨らみ、周辺に弱い角がある。殻の色彩は淡黄色から黄褐色で、殻質は薄く、殻表に薄い殻皮を持つ。産地によって殻の色彩、周辺角の強さなど殻の形態は変異する。近似種のマメマイマイに比べて、より大きくなることで区別できる。地方種や亜種として、アメイロヒルゲンドルフマイマイやオオヒルゲンドルフマイマイなどが知られている。

<分布> [市内] 京町、合渡、島、日野、梅林、白山、方県、明德などで記録がある。

[県内] 伊吹山、垂井町、美濃市、大垣市、大野町、揖斐川町(旧春日村)などに分布。

[県外] 伊吹山系、鈴鹿山系の石灰岩地に分布。



撮影：川瀬基弘

コシダカヒメモノアラガイ

Fossaria truncatula

モノアラガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：情報不足

<選定理由> 希少

<種の概要> 殻高 5mm、殻径 2.5mm 程度で、殻口高は殻高の 5 割程度を占めるが、ヒメモノアラガイのように広くはならない。生時は軟体部が透けて黒っぽく見えるが、殻は黄白色から飴色の半透明である。ヨーロッパ原産の外来種であると考えられているが、在来種である可能性も否定できない。市内では、劣化した水路のコンクリート壁面の亀裂など水際付近に生息していた。

<分布> [市内] 岩野田、三里、三輪南、早田、則武、長良西、鶉などで記録がある。

[県内] 不詳。

[県外] 北海道以南、群馬県、愛知県、徳島県、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

モノアラガイ

Radix (Radix) japonica

モノアラガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：準絶滅危惧

<選定理由> 希少、環境改変

<種の概要> 殻高 20mm 程度で、殻口が著しく広がり殻口高は殻高の 7~8 割程度を占める。軸唇は多少ねじれる。殻表面には細かい成長脈がみられる。蓋はない。かつては日本各地に普通に生息していたが、1980 年代後半頃から各地で減少している。水質汚濁、農薬散布、用水路の改修のため生息地、生息数とも著しく減少した。今回得られた個体は、最近分布を広げている似て非なる外来種の可能性もある。

<分布> [市内] 鏡島、合渡、市橋、七郷、城西、島、日置江、本荘などで記録がある。

[県内] 海津市(旧海津町)、可児市(旧可児町河合木曾川)に分布。

[県外] 北海道~九州に分布。



撮影：川瀬基弘(市外産)

ヒメオカモノアラガイ

Succinea lyrata

オカモノアラガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

<選定理由> 希少

<種の概要> 殻は卵形で短く、淡黄色。殻長 7~12mm。螺塔は幅広くやや高く円錐形で 3 螺層。弱い皺があり、体層は強く大きい。殻口は幅広い卵形で、殻高の 3/4 の長さである。内部は琥珀色である。オカモノアラガイよりも著しく小型で、よく膨らみ、縫合は深い。中国大陸、トカラ列島、喜界島・沖永良部島・沖縄・八重山に分布する。

<分布> [市内] 厚見、合渡、黒野、三輪北、常磐、鶉で記録がある。

[県内] 美濃加茂市、下呂市(旧下呂町)、郡上市(旧八幡町)、各務原市などに分布。

[県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：市原俊

キセルモドキ

Mirus reinianus

キセルガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：—

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻高 25～29mm、殻径 6.5～8.5mm、黄褐色で狭長な右巻きの殻をもつ。殻表には成長線に沿った不規則で微細な顆粒状の彫刻がある。殻口は強く反転し肥厚する。滑層は磁白色。軸唇縁の下端はやや角があり、臍孔隙は狭い。倒木裏面、朽ち木内部、湿潤な落葉や枯草の堆積下に生息する。

＜分布＞ [市内] 金華山周辺(1967年)で記録がある。
[県内] 揖斐川町(旧久瀬村)、山県市(旧美山町)、郡上市(旧八幡町)、高山市(旧朝日村)、瑞浪市、池田町などに分布。
[県外] 本州(関東～近畿・中国)、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘(市外産)

ヒラベッコウ

Bekkochlamys micrograpta

ベッコウマイマイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：情報不足

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻はやや小形で、殻高 5mm、殻径 10mm 程度。半透明、淡い黄褐色で光沢が強い。螺塔は低く扁平で、わずかに緩やかに突きでる。各層は緩やかに広がり、体層は著しく広くなり、その幅は次体層の倍である。周縁は円い。殻表は滑らかで、繊細な成長線と細密な螺線によって彫刻されている。殻口はわずかに斜位で広い新月形、その周縁は鋭く尖る。殻軸は前方へ広がる。臍孔は狭く、その幅は殻径の 1/10 ぐらいである。

＜分布＞ [市内] 芥見南、岩野田北、金華、合渡、島、日置江、藍川などで記録がある。
[県内] 瑞浪市、恵那市(旧串原村)、高山市(旧高根村)、白川村などに分布。
[県外] 本州、四国、九州とその属島に分布。



撮影：西尾和久(市外撮影)

＜特記事項＞ 自然林の減少や乾燥化が減少の要因である。適度な湿度を保った腐葉土やリター層の貧弱な雑木林では生息が困難である。

ピロウドマイマイ属の一種

Nipponochloritis sp.

ニッポンマイマイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：—
環境省：情報不足

＜選定理由＞ 希少

＜種の概要＞ 殻高 12mm、殻径 17mm 程度、殻はやや球形で、黄褐色。殻表には短い殻毛が密にある。螺塔はほとんど平らで、縫合の間は緩やかに中高となる。次体層と体層は下降し、円形となる。殻口はわずかに斜位、広い円形、その唇縁は薄い。滑層は内唇から外側へ広がり半円状となる。臍孔がある。ケハダピロウドマイマイに比し殻皮毛の密度が高いものを本種に位置づけた。

＜分布＞ [市内] 芥見、岩、岩野田、三輪南で記録がある。
[県内] 可児市、瑞浪市、多治見市など東濃地域を中心に分布。
[県外] 東北・関東・中部・近畿・四国地方などに分布。



撮影：川瀬基弘(市外産)

＜特記事項＞ DNA 分析の結果、従来から *Nipponochloritis oscitans* とされている種には複数種が含まれるため、*Nipponochloritis* sp. とした。

カワシンジュガイ

Margaritifera laevis

カワシンジュガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ 希少、特異生態、環境改変、営利目的、外来種の影響

＜種の概要＞ 殻長 10cm 程度になる淡水産二枚貝。殻は褐色から黒色になり、内側は青味がかった真珠光沢が強い。背縁は前方に傾斜し、前縁は楕円形に突出する。前閉殻筋痕は丸い耳状である。一般に、夏季でも水温が 20 度以上にならないような河川上流の泥～礫底に生息する。生育場所の流速は比較的速く、多くは早瀬～平瀬に生息する。8 年で性成熟し、最大寿命は 80 年程度と推定されている。ヤマメ、アマゴ、ニジマスが宿主となる。

＜分布＞ [市内] 黒野、常磐、方県で記録がある。
[県内] 高山市、下呂市、郡上市、揖斐川町などに分布。
[県外] 北海道、本州に分布。



撮影：市原俊

＜特記事項＞ 市内での生息は極めて稀で、グロキディウム幼生の寄生した魚類の移動にともなう偶因分布の可能性はある。

カラスガイ

Cristaria plicata

イシガイ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：情報不足
環境省：準絶滅危惧**<選定理由>** 希少、特異生態、環境変化、営利目的、外来種の影響**<種の概要>** 日本産の淡水産二枚貝としては最大級で殻長は約 40cm にまで成長する。ドブガイ類(タガイやヌマガイなど)と混同されることが多いが、本種にはドブガイ類にはない後側歯があり区別は明確である。殻表は滑らかで、しばしば緑色の放射状の模様が見られる。本種の属するイシガイ科二枚貝は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く水質の良い砂泥底を生息場所としている。市内では絶滅寸前である。**<分布>** [市内] 鏡島、合渡、鷺山、則武、木田で記録がある。
[県内] 揖斐川水系下流域に分布。
[県外] 北海道、本州に分布。**<特記事項>** 妊卵期は晩秋から早春で、幼生はその間に放出される。宿主はヨシノボリで、幼生は鰓や鰓に付着寄生する。

撮影：市原俊

マシジミ

Corbicula leana

シジミ科

岐阜市：情報不足
岐阜県：準絶滅危惧
環境省：絶滅危惧Ⅱ類**<選定理由>** 希少、環境変化**<種の概要>** 殻は 30mm 程度の垂三角形で、殻色は黄褐色から黒褐色を呈し光沢はほとんどない。小型の二枚貝で、湖岸や河川の砂地に分布する。汽水域に分布するヤマトシジミと比べると、殻の高さが低く、光沢がにぶい。また殻の表面に小さく黒い斑模様がある。幼貝は緑黄色で成長すると黒くなる。比較的きれいな水が流れる川や池に生息する。市内では外来種のタイワンシジミが分布を拡大し、マシジミの生息地は激減している。**<分布>** [市内] 岩、厚見、合渡、早田、島、藍川、鶉などで記録がある。
[県内] タイワンシジミの侵入していない県内各地の河川や湖沼に分布。
[県外] 東北～九州、四国に分布。**<特記事項>** マシジミをタイワンシジミのシノニムとする見解もあり、文献により異なる見解が示されている。

撮影：市原俊

I-2-9 甲殻類(十脚類)

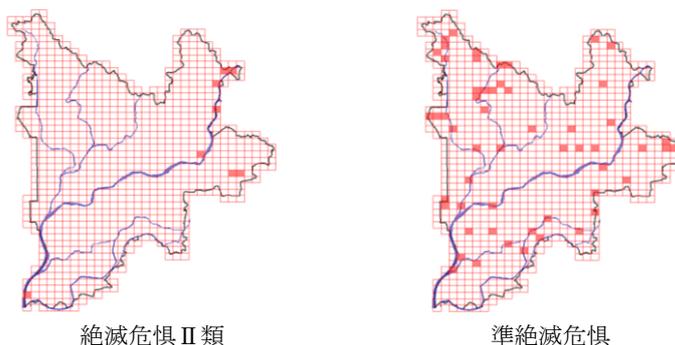
甲殻類(十脚類)のレッドリスト掲載種は、岐阜市内で生息記録のある8種のうち50.0%にあたる4種を選定した。

カテゴリー区分別にみると、絶滅危惧Ⅱ類はミズレヌマエビ、ヌマエビ北・中部群の2種、準絶滅危惧はサワガニ、モクズガニの2種である。なお、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、情報不足の該当種はない(表I-2-9参照)。

確認場所の詳細な記録があるデータを基に、カテゴリーごとの分布状況(3次メッシュの1/2地域メッシュ)についてみると、絶滅危惧Ⅱ類の種群は、市の東部に7メッシュと南部に1メッシュで記録がある。準絶滅危惧の種群は、市の中心市街地を除く広い範囲の55メッシュで記録がある。カテゴリーごとの分布状況は図I-2-9に示すとおりである。

表I-2-9 甲殻類(十脚類)選定種一覧

カテゴリー区分	甲殻類(十脚類)	種数
絶滅	—	—
野生絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	—	—
絶滅危惧Ⅱ類	ミズレヌマエビ、ヌマエビ北・中部群	2
準絶滅危惧	サワガニ、モクズガニ	2
情報不足	—	—
合 計		4



図I-2-9 カテゴリー別分布状況(甲殻類(十脚類))

ミゾレヌマエビ

Caridina leucosticta

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 体長 3cm 程度。両側回遊性の小卵型ヌマエビ類で、眼上棘が無く、頭胸甲の前側角部が尖らない。額角上縁の先端部に他から離れた数個の棘がある。体色は茶色や透明だが、背面の正中線上に 1 本の幅広い黄褐色の縞がある。ミナミヌマエビに比べると腹部に対して頭胸部が小さく、額角が長いこともあってスマートな体形に見える。

＜分布＞ [市内] 長良大橋周辺に分布。
[県内] 木曾三川の下流域に分布
[県外] 西南日本に広く分布。

＜特記事項＞ 市内での分布は限られている。2002 年に岐関大橋付近で採集された記録もあるが、写真や標本が無い場合誤同定の可能性がある。

ヌマエビ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：—

環境省：—



撮影：向井貴彦

ヌマエビ北・中部群

Paratya compressa compressa

＜選定理由＞ 希少、環境改変

＜種の概要＞ 全長 3cm 程度。形態的にヌマエビと呼ばれている種は、一生を淡水で暮らす「北・中部群」と海に下る「南部群」の 2 種に分けられる。両種は遺伝的に分化しており、北・中部群は東日本のヌカエビと近縁である。眼上棘が有り、頭胸甲の前側角部が尖らない。額角上縁の先端部に他から離れた棘は無い。体色は透明な個体が多い。体を伸ばした状態で腹部中央がやや盛り上がった体形をしている。

＜分布＞ [市内] 北東部の河川とため池に分布。
[県内] 不明。
[県外] 中部地方以北に分布。

＜特記事項＞ 市内での分布は限られている。やや水がきれいで流れのある環境に生息する傾向にある。

ヌマエビ科

岐阜市：絶滅危惧Ⅱ類

岐阜県：—

環境省：—



撮影：向井貴彦

サワガニ

Geothelphusa dehaani

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 甲幅 3cm 程度。丘陵地の小さな流れや上流域で普通に見ることが出来る身近なカニ。本州にいる他のカニ類は全て幼生期を海で過ごす、サワガニだけは親と同じ形の子ガニが卵から生まれて、一生を山で過ごす。地方によって体色に大きな変異がある。

＜分布＞ [市内] 丘陵地の河川に分布。
[県内] 県内に広く分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

＜特記事項＞ 丘陵地の細流に生息するため、宅地開発や水路の三面コンクリート護岸化によって生息地が減少していると考えられる。

サワガニ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—



撮影：鈴木彰

モクズガニ

Eriocheir japonica

＜選定理由＞ 環境改変

＜種の概要＞ 甲幅 8cm 程度。鋏脚に密な毛が生えることが特徴。川で数年間育ち、成体は秋に交尾と産卵のために海に下る。降河期のものが漁獲され、茹でてかにみそが賞味される。

＜分布＞ [市内] 長良川と周辺の支流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域周辺に分布。
[県外] 北海道から沖縄まで分布。

＜特記事項＞ 下流域の環境変化による遡上・降下への影響が考えられる。漁業用の放流が行われているため、市内で採れるものは必ずしも海から上がったきたとは限らず、存続基盤が脆弱と判断される。

モクズガニ科

岐阜市：準絶滅危惧

岐阜県：—

環境省：—



撮影：鈴木彰

I-3. 岐阜市版レッドリスト掲載種一覧

【植物（維管束植物）】(1/5)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	
1	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	絶滅				○	○	○	○	
2	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧		○	○	○		
3	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
4	メヤブソテツ	<i>Cyrtomium caryotideum</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○	○	○		
5	ヘランダ	<i>Deparia lancea</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
6	ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
7	ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○	○	○		
8	シロハナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
9	ニッケイ	<i>Cinnamomum sieboldii</i>	絶滅危惧Ⅰ類		準絶滅危惧		○	○	○		
10	カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○	○	○		
11	クサボタン	<i>Clematis stans</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○	○	
12	トウコクサハノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
13	バイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○		
14	ヘビノボラス	<i>Berberis sieboldii</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○		
15	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
16	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		岐阜市条例(貴重野生動植物種)
17	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○	○	
18	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus japonicus</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
19	フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
20	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
21	ヤマエンゴサク	<i>Corydalis lineariloba</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
22	ヒロハコンロンソウ	<i>Cardamine appendiculata</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
23	チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
24	アカショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
25	ウラジロウツギ	<i>Deutzia maximowicziana</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
26	タヌキマメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
27	ミヤマカタハミ	<i>Oxalis griffithii</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
28	ヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
29	ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
30	ギンリョウソウモドキ	<i>Monotropa uniflora</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
31	ベニドウドン	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>rubens</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○	○	
32	ギンシイカ	<i>Lysimachiaacroadenia</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
33	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○		
34	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
35	ジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○	○	○		
36	シモバシラ	<i>Collinsonia japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○	○	○		
37	ヒメサルダヒコ	<i>Lycopus ramosissimus</i> var. <i>ramosissimus</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
38	ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
39	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧		○	○	○		
40	ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
41	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
42	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
43	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> var. <i>illicina</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
44	イワタバコ	<i>Conandron ramondioides</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
45	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧		○	○	○		
46	タヌキモ	<i>Utricularia japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類		準絶滅危惧		○	○	○		
47	ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
48	スイラン	<i>Hololeion krameri</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
49	サワギク	<i>Nemesencio nikoensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
50	ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
51	スプタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
52	ヤナグスプタ	<i>Blyxa japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
53	コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○		
54	アマナ	<i>Amana edulis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
55	ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
56	キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
57	ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
58	イトイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
59	シロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon sikokianum</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
60	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○		
61	ウランマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>urashima</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
62	オニスゲ	<i>Carex dickinsii</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
63	カンガレイ	<i>Schoenoplectus triangulatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
64	コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenooides</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
65	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○	○	○	○	
66	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○	○	
67	サイハイラン	<i>Crematista appendiculata</i> var. <i>variabilis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○	○	
68	セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○	○	○	○	岐阜県条例(指定希少野生生物)
69	オノノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
70	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
71	エンシュウムヨウラン	<i>Lecanorchis suginoana</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○		
72	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○	○	○		
73	サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧		○	○	○	○	

【植物（維管束植物）】(2/5)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	
74	ミズスギ	<i>Lycopodium cernuum</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○		
75	ウチワコケ	<i>Crepidomanes minutum</i>	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧ⅠB類		○	○	○		
76	クジャクシダ	<i>Adiantum pedatum</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○	
77	ピロードシダ	<i>Pyrosia linearifolia</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○	
78	ヤマモモ	<i>Morella rubra</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○		
79	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
80	カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
81	カナビキソウ	<i>Thesium chinense</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
82	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
83	ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria praetermissa</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
84	ネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i> var. <i>viscofera</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
85	フシグロ	<i>Silene firma</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
86	ミヤマハコベ	<i>Stellaria sessiliflora</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
87	アオハコベ	<i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>apetala</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	
88	シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○	
89	マツブサ	<i>Schisandra repanda</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
90	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
91	ヒメオトギリ	<i>Hypericum japonicum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	
92	ヤマハタザオ	<i>Arabis hirsuta</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
93	ジャンジソ	<i>Cardamine impatiens</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
94	ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
95	ユリワサビ	<i>Eutrema tenue</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
96	ハタザオ	<i>Turritis glabra</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
97	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○	○	○	○
98	ヒメレンゲ	<i>Sedum subtile</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
99	ツルネコノメソウ	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
100	ヒメウツギ	<i>Deutzia gracilis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
101	タマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
102	ヤマアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>serrata</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
103	コチャルメルソウ	<i>Mitella pauciflora</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
104	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
105	ナメライモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>suwoensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
106	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
107	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
108	タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
109	ヤマアイ	<i>Mercurialis leiocarpa</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
110	コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
111	ツルンキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>intermedia</i> f. <i>repens</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
112	ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
113	エンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> subsp. <i>dissectum</i> f. <i>dissectum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
114	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
115	ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
116	エイザンスミレ	<i>Viola eizanensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
117	ヒシ	<i>Trapa japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
118	ハリギリ	<i>Kalopanax septemlobus</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
119	シヤク	<i>Anthriscus sylvestris</i> subsp. <i>sylvestris</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
120	ハルリンドウ	<i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
121	アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
122	センブリ	<i>Swertia japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
123	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○	○	○	
124	ヤマハリソウ	<i>Omphalodes japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
125	ニシキゴロモ	<i>Ajuga yezoensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
126	ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
127	コンロネ	<i>Lycopus cavaleriei</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
128	ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
129	ウツボグサ	<i>Prunella vulgaris</i> subsp. <i>asiatica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
130	タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
131	イヌゴマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
132	ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
133	ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
134	シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>Aromatica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
135	ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
136	クチナシグサ	<i>Monochasma shearerii</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
137	ソクズ	<i>Sambucus chinensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
138	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧				○	○	○	
139	ツルカノソウ	<i>Valeriana flaccidissima</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
140	サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
141	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○	○
142	ヌマダikon	<i>Adenostemma lavenia</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
143	イヌヨモギ	<i>Artemisia keiskeana</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
144	ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
145	センダングサ	<i>Bidens biternata</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	
146	タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○	○	○	

レッドリスト

【植物（維管束植物）】(3/5)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリー	岐阜県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	選定理由						法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 目 的	
147	リュウノウギク	<i>Chrysanthemum makinoi</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
148	ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
149	センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
150	フトヒルムシロ	<i>Potamogeton fryeri</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
151	ホツスモ	<i>Najas graminea</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
152	コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○			
153	ナルコユリ	<i>Polygonatum falcatum</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
154	アマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
155	ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
156	アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○		
157	ニッポニンヌノヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
158	ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○	○	○			
159	ヒメノガリヤス	<i>Calamagrostis hakonensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
160	チョウセンガリヤス	<i>Cleistogenes hackelii</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
161	オガルカヤ	<i>Cymbopogon tortilis</i> var. <i>goeringii</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
162	オオハンゲ	<i>Pinellia tripartita</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
163	マツノバスゲ	<i>Carex biwensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
164	クロヒナスゲ	<i>Carex gifuensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○			
165	オオハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>congesta</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
166	ノテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i> f. <i>exaltata</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
167	フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○			
168	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○	○		
169	ツチアケビ	<i>Cyrtosia septentrionalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○	○		
170	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○	○	○	
171	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○		
172	トンボソウ	<i>Platanthera ussuriensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○		
173	カヤラン	<i>Thrixsperrum japonicum</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○		
174	ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○	○	○			
175	クサノテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
176	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
177	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> var. <i>harringtonia</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
178	カワラハンノキ	<i>Alnus serrulata</i> var. <i>orientalis</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
179	スダジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
180	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	準絶滅危惧	情報不足			○	○	○			
181	イチイガシ	<i>Quercus gilva</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
182	タニバ	<i>Persicaria nepalensis</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
183	サウハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
184	アブラチャン	<i>Lindera praecox</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
185	シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
186	カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
187	ヤマグルマ	<i>Trochodendron aralioides</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
188	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>	準絶滅危惧				○	○	○	○		
189	ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
190	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
191	ミヤマキケマン	<i>Corydalis pallida</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
192	ヤマガラシ	<i>Barbarea orthoceras</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
193	ワサビ	<i>Eutrema japonicum</i>	準絶滅危惧				○	○	○	○		
194	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
195	オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
196	トリアシショウマ	<i>Astilbe odontophylla</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
197	ガクウツギ	<i>Hydrangea scandens</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
198	ミカワチャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>furusei</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
199	コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
200	ワタゲカマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>villosa</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
201	テリハノイバラ	<i>Rosa luciae</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
202	ミヤマフユイチゴ	<i>Rubus hakonensis</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
203	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
204	ホドイモ	<i>Apios fortunei</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
205	ジャケツイバラ	<i>Caesalpinia decapetala</i> var. <i>japonica</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
206	カワラケツメイ	<i>Chamaecrista nomame</i>	準絶滅危惧				○	○	○		○	
207	シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
208	マツカゼソウ	<i>Boenninghausenia albiflora</i> var. <i>japonica</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
209	キハダ	<i>Phellodendron amurense</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
210	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
211	ツタウルシ	<i>Toxicodendron radicans</i> subsp. <i>orientale</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
212	コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
213	ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
214	タラヨウ	<i>Ilex latifolia</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
215	ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
216	ケンボナシ	<i>Hovenia dulcis</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
217	トウグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> var. <i>hortensis</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
218	アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>umbellata</i>	準絶滅危惧				○	○	○			
219	シロバナオオタチツボスミレ	<i>Viola kusanoana</i> f. <i>alba</i>	準絶滅危惧				○	○	○			

【植物（維管束植物）】(4/5)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリー	岐阜県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	選定理由						法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 的 目 的	
220	ナガバタチツボスミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>	準絶滅危惧				○			○		
221	スミレサイシン	<i>Viola vaginata</i>	準絶滅危惧				○			○		
222	ヒメアギスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>subaequiloba</i>	準絶滅危惧				○			○		
223	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	準絶滅危惧				○			○		
224	ゴキツル	<i>Actinostemma tenerum</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○			○		
225	キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>	準絶滅危惧				○			○		
226	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
227	ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	準絶滅危惧				○			○		
228	ツボクサ	<i>Centella asiatica</i>	準絶滅危惧				○			○		
229	ウシミツバ	<i>Cryptotaenia canadensis</i> subsp. <i>japonica</i> f. <i>dissecta</i>	準絶滅危惧				○			○		
230	オオバチドメ	<i>Hydrocotyle javanica</i>	準絶滅危惧				○			○		
231	ムカゴニンジン	<i>Sium ninsi</i>	準絶滅危惧				○			○		
232	アブラツツジ	<i>Enkianthus subsessilis</i>	準絶滅危惧				○			○		
233	ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i>	準絶滅危惧				○			○		
234	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○			○		
235	リュウキュウマメガキ	<i>Diospyros japonica</i>	準絶滅危惧				○			○		
236	クロミノシゴリ	<i>Symplocos paniculata</i>	準絶滅危惧				○			○		
237	アオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa</i> f. <i>serrata</i>	準絶滅危惧				○			○		
238	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>	準絶滅危惧				○			○		
239	オオアリドオン	<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>major</i>	準絶滅危惧				○			○		
240	ナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia ciliata</i>	準絶滅危惧				○			○		
241	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○			○		
242	マルバノホロシ	<i>Solanum maximowiczii</i>	準絶滅危惧				○			○		
243	サフトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>	準絶滅危惧				○			○		
244	スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>	準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
245	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>	準絶滅危惧				○			○		
246	タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>	準絶滅危惧				○			○		
247	タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosae</i>	準絶滅危惧				○			○		
248	カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>	準絶滅危惧				○			○		
249	カワラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i>	準絶滅危惧				○			○		
250	ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>	準絶滅危惧				○			○		
251	サワアザミ	<i>Cirsium yezoense</i>	準絶滅危惧				○			○		
252	ヤクンソウ	<i>Crepidium denticulatum</i>	準絶滅危惧				○			○		
253	フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○			○		
254	オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	準絶滅危惧				○			○		
255	ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>	準絶滅危惧				○			○		
256	メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>	準絶滅危惧				○			○		
257	シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>	準絶滅危惧				○			○		
258	サウオグルマ	<i>Tephrosia pierotii</i>	準絶滅危惧				○			○		
259	アギナン	<i>Sagittaria aginashi</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○			○		
260	シライトソウ	<i>Chionographis japonica</i>	準絶滅危惧				○			○		
261	チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	準絶滅危惧				○			○		
262	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	準絶滅危惧				○			○		
263	ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	準絶滅危惧				○			○		
264	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○			○	○	
265	ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> var. <i>effusoides</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○			○		
266	トウササクサ	<i>Lophatherum sinense</i>	準絶滅危惧				○			○		
267	コメガヤ	<i>Melica nutans</i>	準絶滅危惧				○			○		
268	ミヤコザサ	<i>Sasa nipponica</i>	準絶滅危惧				○			○		
269	イブキザサ	<i>Sasa tsuboiana</i>	準絶滅危惧				○			○		
270	イヌアワ	<i>Setaria chondrachne</i>	準絶滅危惧				○			○		
271	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○			○		
272	ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>	準絶滅危惧				○			○		
273	クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>	準絶滅危惧				○			○		
274	サンカクイ	<i>Schoenoplectus triquetrum</i>	準絶滅危惧				○			○		
275	イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類			○					
276	コハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>nipponicum</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類			○					
277	ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類			○					
278	トキワシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類			○					
279	オウセベニシダ	<i>Dryopteris ryoo-itoana</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類			○					
280	ミヤマウラボシ	<i>Phymatopsis veitchii</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類			○					
281	カシワ	<i>Quercus dentata</i>	情報不足	情報不足			○					
282	サンショウソウ	<i>Pellionia minima</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類			○					
283	マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i>	情報不足	準絶滅危惧			○	○				
284	ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>	情報不足	準絶滅危惧			○					
285	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	情報不足	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○					
286	オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> subsp. <i>Japonica</i>	情報不足	準絶滅危惧			○					
287	イヌガン	<i>Neolitsea aciculata</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類			○	○				
288	インモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○	○				
289	キケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i>	情報不足	準絶滅危惧			○					
290	クサフジ	<i>Vicia cracca</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類			○					
291	ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○					
292	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○					

レッドリスト

【植物（維管束植物）】(5/5)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
293	シロスミレ	<i>Viola patrinii</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類		○						
294	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
295	タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	○						
296	ヒトツバタゴ	<i>Chionanthus retusus</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
297	シオジ	<i>Fraxinus platypoda</i>	情報不足	情報不足		○						
298	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	○						
299	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	情報不足	情報不足	絶滅危惧ⅠA類	○						
300	ツルカコソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
301	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
302	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○						
303	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
304	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅰ類		○						
305	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○						
306	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○						
307	オオアオスゲ	<i>Carex lonchophora</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○						
308	マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	情報不足	準絶滅危惧	準絶滅危惧	○	○					
309	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	○		○				

【動物（哺乳類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
1	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○					
2	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類			○					
3	ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	準絶滅危惧					○				
4	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	準絶滅危惧					○				
5	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	準絶滅危惧					○				
6	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	準絶滅危惧					○				
7	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	準絶滅危惧					○				
8	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧						○		
9	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	準絶滅危惧					○				
10	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	準絶滅危惧					○				

【動物（鳥類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
1	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
2	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○		○			
3	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	○				○		
4	コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類			○				種の保存法(国際希少野生動物種)
5	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○					
6	セツク	<i>Cisticola juncidis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○					
7	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	絶滅危惧Ⅰ類	情報不足			○					
8	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧			○					
9	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	絶滅危惧Ⅱ類					○		○		
10	タマンギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○	○				
11	サンバ	<i>Butastur indicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
12	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○					
13	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧						○		
14	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧				○		○		
15	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	準絶滅危惧					○		○		
16	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	準絶滅危惧							○		
17	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧					○		
18	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					種の保存法(国内希少野生動物種)
19	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧				○				
20	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧				○				
21	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○					
22	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	準絶滅危惧				○					

【動物（爬虫類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
1	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○			○	○	
2	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	情報不足	情報不足			○					
3	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	情報不足	情報不足	情報不足		○					
4	タカチホヘビ	<i>Achalina spinalis</i>	情報不足				○	○	○	○		
5	ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	情報不足				○	○	○	○		
6	シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>	情報不足				○	○	○	○		

【動物（両生類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由						法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 目 的	
1	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	○			○		岐阜市条例(貴重野生動物種)
2	ナゴヤダルマガエル	<i>Pelophylax porosus brevipodus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		○	○	○			
3	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○	○	○			
4	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○					
5	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	準絶滅危惧							○		
6	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	○					文化財保護法(特別天然記念物)種の保存法(国際希少野生動物種)
7	タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	情報不足				○			○		
8	ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	情報不足				○	○	○			
9	ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	情報不足				○	○	○			
10	モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>	情報不足	情報不足			○	○	○			
11	カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	情報不足				○					

【動物（魚類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由						法指定等
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 目 的	
1	ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i> subsp.	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類		○			○		岐阜県条例(指定希少野生生物)
2	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧ⅠB類		○	○	○			
3	イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類		○	○	○	○		
4	シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類		○	○	○	○		
5	カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類		○			○	○	
6	デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
7	ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類		○	○	○			岐阜県条例(指定希少野生生物)
8	トウカイヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. TO	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○			○	○	
9	スナヤツメ北方種	<i>Lethenteron</i> sp. N	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○		○		
10	スナヤツメ南方種	<i>Lethenteron</i> sp. S	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
11	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧				○	○	○	
12	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧				○	○	○	
13	アマゴ(サツキマス)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○			○		
14	カマキリ(アユカケ)	<i>Cottus kazika</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
15	カジカ小卵型	<i>Cottus reinii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		○			○		
16	スمامツ	<i>Candidia sieboldii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧						○		
17	タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus jouyi</i>	準絶滅危惧							○		
18	カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧					○		
19	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧						○		
20	ニシシマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type B	準絶滅危惧							○		
21	トウカイヨガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii tokaensis</i>	準絶滅危惧		絶滅危惧ⅠB類					○		
22	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類					○		岐阜市条例(貴重野生動物種)
23	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	準絶滅危惧							○		
24	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	準絶滅危惧		絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
25	アユ(天然遡上)	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	準絶滅危惧							○		
26	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	準絶滅危惧				○					
27	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○			○		
28	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧						○		
29	スマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	準絶滅危惧							○		
30	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	準絶滅危惧							○		
31	ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>	準絶滅危惧							○		
32	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	準絶滅危惧							○		
33	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	情報不足							○	○	
34	カワアナゴ	<i>Eleotris oxycephala</i>	情報不足	情報不足			○			○		
35	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	情報不足	準絶滅危惧			○			○		
36	アジシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	情報不足	準絶滅危惧			○			○		

【動物（昆虫類）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリー	岐阜県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
1	シルビアシジミ	<i>Zizina emelina emelina</i>	絶滅	絶滅	絶滅危惧ⅠB類					○		
2	ベニイトトンボ	<i>Ceriatrigon nipponicum</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○			○		
3	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○			○		
4	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○			○		
5	ホンサナエ	<i>Gomphus postocularis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			○					
6	キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
7	カワラハタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○					
8	タガメ	<i>Lethocerus deyrolli</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
9	ヒメタイコウチ	<i>Nepa hoffmanni</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類			○			○		
10	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○					
11	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta betheseba</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		○					
12	コクロオハボタル	<i>Lucidina okadai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類		○	○		○		
13	モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○			○		
14	ナゴヤサナエ	<i>Stylister nagoyanus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○	○				
15	トラフトンボ	<i>Epitheca marginata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○			○		
16	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkelfi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○					
17	ウラギンズジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
18	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○			○		
19	ベーツヒラタカミキリ	<i>Euryoda batesi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○	○		○		
20	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis kurosawai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧			○	○				
21	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>	情報不足	情報不足	準絶滅危惧		○			○		
22	クツワムシ	<i>Mecopoda nipponensis</i>	情報不足				○					
23	ゴマフツツガ	<i>Chilo pulveratus</i>	情報不足	情報不足	準絶滅危惧		○			○		
24	エゾスジトウ	<i>Doerriesa striata</i>	情報不足	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○			○		
25	ヨツボシカミキリ	<i>Stenagrion quadrinotatum</i>	情報不足	情報不足	絶滅危惧ⅠB類		○			○		

【動物（貝類）】(1/2)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリー	岐阜県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	選定理由					法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変		営 利 目 的
1	ナタネキハサナギガイ	<i>Vertigo eogia eogia</i>	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅱ類		○	○				
2	イボイボナメクジ	<i>Granulilimax fuscicornis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	情報不足	準絶滅危惧		○		○			
3	クチベニマイマイ	<i>Euhadra amaliae</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○					
4	ミノマイマイ(クロイワマイマイ亜種)	<i>Euhadra senckenbergiana minoensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○					
5	タガイ	<i>Anodonta japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類				○	○	○	○	○	
6	オハエボンガイ	<i>Inversidens brandti</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○	○	○	
7	カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○	○	○	
8	インガイ	<i>Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類			○	○	○	○	○	
9	ヒメマルメタニシ	<i>Gabbia kiusiuensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○		○			
10	クロダカワニナ	<i>Semilucospira (Biwamelania) kurodai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
11	ナミキセル	<i>Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○			○		
12	ミジンナタネガイ	<i>Punctum atomus</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○					
13	レンズガイ	<i>Otesioptis japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類		○					
14	ヤマタカマイマイ	<i>Satsuma papillifera</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
15	ヌマガイ	<i>Anodonta lauta</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○	○	○	○	○	
16	マツカサガイ	<i>Inversidens (Pronodularia) japonensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○	○	○	○	○	
17	トンガリササノハガイ	<i>Lanceolaria grayana</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		○	○	○	○	○	
18	キュウシュウゴマガイ	<i>Diplomatina tanegashimae kyushuensis</i>	準絶滅危惧				○					
19	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類					○		
20	オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧					○		
21	ニホンケシガイ	<i>Carychium nipponense</i>	準絶滅危惧				○					
22	ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis</i>	準絶滅危惧		情報不足		○					
23	ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○					
24	ヤマナメクジ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i>	準絶滅危惧				○					
25	ヒゼンキビ	<i>Parakaliella hizenensis</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○					
26	ウメムラシタラ	<i>Coneuplecta (Sitalina) japonica</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○					
27	タカキビ	<i>Coneuplecta praealta</i>	準絶滅危惧	情報不足	準絶滅危惧		○					
28	ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	準絶滅危惧		準絶滅危惧		○					
29	ケハダビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
30	コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>	準絶滅危惧				○					
31	コオベソマイマイ	<i>Aegista mimula</i>	準絶滅危惧				○					
32	オトメマイマイ	<i>Trishoplita goodwini</i>	準絶滅危惧				○					
33	ヒルゲンドルフマイマイ	<i>Trishoplita hilgendorfi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧		○					
34	コシダカヒメモノアラガイ	<i>Fossaria truncatula</i>	情報不足		情報不足		○					
35	モノアラガイ	<i>Radix (Radix) japonica</i>	情報不足		準絶滅危惧		○			○		

【動物（貝類）】(2/2)

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由						法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 目 的		外 来 種 の 影 響
36	ヒメオカモノアラガイ	<i>Succinea lyrata</i>	情報不足				○						
37	キセルモドキ	<i>Mirus reinianus</i>	情報不足				○						
38	ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	情報不足		情報不足		○						
39	ピロウドマイマイ属の一種	<i>Nipponochlaritis</i> sp.	情報不足		情報不足		○						
40	カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i>	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		○	○	○	○	○		
41	カラスガイ	<i>Cristaria plicata</i>	情報不足	情報不足	準絶滅危惧		○	○	○	○	○		
42	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	情報不足	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		○						

【動物（甲殻類(十脚類)）】

番号	和名	学名	岐阜市 カテゴリ	岐阜県 カテゴリ	環境省 カテゴリ	選定理由						法指定等	
						分布 限界	希 少	特 殊 環 境	特 異 生 態	環 境 改 変	営 利 目 的		外 来 種 の 影 響
1	ミゾレヌマエビ	<i>Caridina leucosticta</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○			○			
2	ヌマエビ北・中部群	<i>Paratya compressa compressa</i>	絶滅危惧Ⅱ類				○			○			
3	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	準絶滅危惧							○			
4	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	準絶滅危惧							○			